

全国いか加工業協同組合

全国いか組合報

No. 638

令和3年8月1日発行



スルメイカ FAO名(英) :Japanese flying squid 市場名:マイカ, マツイカ, ムギイカ, トンキュウ, ガンゼキ(地方名)

ML 30cm。外套膜は筋肉質で外套膜の背中線上に暗色の縦帯がある。鰓は幅広の菱形である。漏斗溝には縦溝があるが、側部のポケット様襞はない。漏斗軟骨器が上型。腕の大吸盤角質環には鋭い歯があるが、基部寄りの縁は平滑。雄の右IV腕の先端部はやや偏圧され櫛歯状の肉嘴列となる。触腕の大吸盤には鋭い円錐形の歯と低い板状の歯とが交互に並んでいる。最南端の記録はホンコン。北限はカナダの記録がある。

新編 世界イカ類図鑑 P.189より抜粋(奥谷喬司著/全国いか加工業協同組合刊) [写真: 堀川博史]

全いかニュース

1. 漁況関連情報	
1. 2021年度 第2回 日本海海況予報	1
2. 2021年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報	4
3. 2021年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報	15
2. 組合からの関連情報	
1. いか関連 新聞記事(抜粋)	22
2. 中小企業景況調査報告書(4-6月)	26

統 計

I. 2021年5月分 全国イカ水揚集計表(全漁連)	30
II. いか類輸入 国別通関実績 2021年6月 —財務省貿易統計より—	31
(1) 冷凍いか(除くもんごう)	
(2) 乾燥・塩蔵・塩水漬け	
(3) 調整品	
III. 農林水産統計	34
1. 产地水產物流統計 令和3(2021)年5月	
(1) 月別上場水揚量・価格	
(2) 累積上場水揚量・価格	
(3) 漁港別水揚量・価格	
2. 冷蔵水產物流統計 令和3(2021)年5月	
(1) 月間入・出庫量及び月末在庫量	



プレスリリース

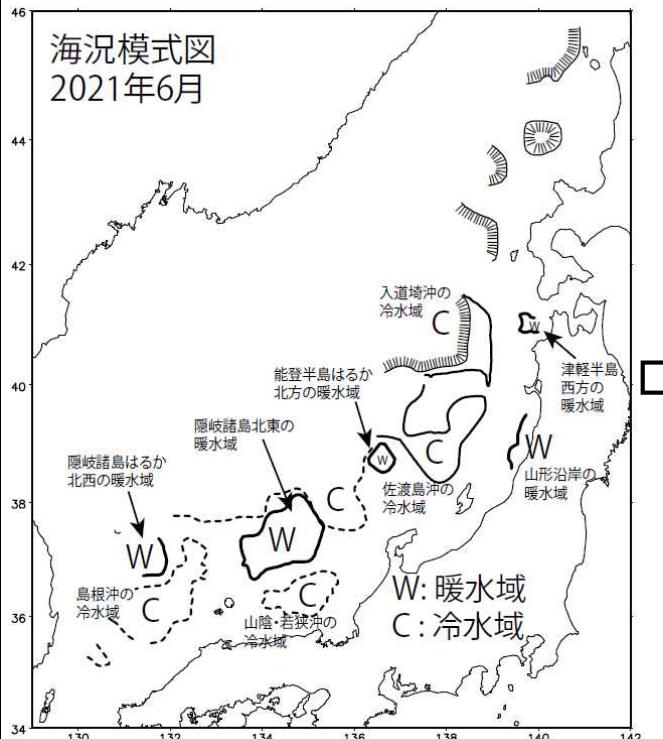
2021年7月9日

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2021年度 第2回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2021年7月中旬～9月)のポイント



○隠岐諸島はるか北西の暖水域は東進し隠岐諸島はるか北方に分布。隠岐諸島北東の暖水域は東進し能登半島西方に分布。能登半島はるか北方の暖水域は定在。山形沿岸の暖水域は北進し秋田西方に分布。津軽半島西方の暖水域は東進し津軽海峡から流失

○島根沖の冷水域の張り出しあは、規模はやや小さく、接岸状況はやや接岸。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しあは、規模はやや小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域の張り出しあは、規模・接岸状況ともに平年並み。入道崎沖の冷水域の張り出しあは、規模はやや小さく、接岸状況はかなり離岸。

○対馬暖流域の表面水温は、”平年並み”。

○対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とともに“かなり高め”。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 森永

海洋環境部（新潟） 渡邊、井桁

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度 第2回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2021年7月中旬～9月）

- (1) 隠岐諸島はるか北西の暖水域は東進し隠岐諸島はるか北方に分布する。隠岐諸島北東の暖水域は東進し能登半島西方に分布する。能登半島はるか北方の暖水域は定在する。山形沿岸の暖水域は北進し秋田西方に分布する。津軽半島西方の暖水域は東進し津軽海峡から流失する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しが、規模はやや小さく、接岸状況はやや接岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しが、規模はやや小さく接岸状況は平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しが、規模・接岸状況ともに平年並みで経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しが、規模はやや小さく、接岸状況はかなり離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“平年並み”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに“かなり高め”で経過する。

2. 経過((1)は2021年3月～21年6月、(2)～(3)は2021年3月～21年5月、(4)は2021年3月)

- (1) 3月に隠岐諸島北東で見られた暖水域は6月まで定在。3月に島根北方に見られた暖水域は東進した後に北上し、隠岐諸島東方を経由した後に、6月に隠岐諸島北東の暖水域と合体。3月に秋田西方に見られた暖水域は北上し、6月に津軽半島西方に分布。3月に津軽半島西方で見られた暖水渦は4月に津軽海峡から太平洋へ流失。4月に能登半島はるか北方に出現した暖水域は5月まで定在した後にやや南下し、6月に能登半島はるか北方に分布。5月に隠岐諸島はるか北西に出現した暖水域は6月まで定在。6月に山形沿岸に暖水域が出現。
- (2) 島根沖の冷水域は、3～4月はかなり小さく接岸状況ははなはだ離岸、5月はやや小さめでかなり離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、3月は規模・接岸状況ともに平年並み、4月はやや小さくやや離岸、5月はやや小さく接岸状況は平年並み。佐渡島沖の冷水域は、3月はやや小さくやや離岸、4月はやや小さくかなり離岸、5月はやや小さく接岸状況は平年並み。入道崎沖の冷水域は、3月はやや小さくはかなり離岸、4月と5月はかなり小さくはなはだ離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、3月は島根～鳥取沿岸、隠岐諸島はるか北方および佐渡島～山形沖で“かなり高め”～“はなはだ高め”、福井沿岸、能登半島東岸で“かなり高め”、能登半島はるか西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”以外は“平年並み”～“やや高め”。4月は島根～但馬沿岸、能登半島東岸～青森沿岸で、“かなり高め”、鳥取沿岸、新潟上越沿岸で“はなはだ高め”以外は“やや高め”。5月は山口県沿岸で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外は“平年並み”～“やや低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“かなり高め”、北部では“やや高め”。

3. 現況（2021年6月）

- (1) 暖水域は隠岐諸島はるか北西、隠岐諸島北東、能登半島はるか北方、山形沿岸、津軽半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、かなり小さくやや接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、かなり小さく接岸状況は平年並み。佐渡沖の冷水域は、規模、接岸状況とも平年並み。入道崎沖の冷水域は、やや小さくかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、鳥取沿岸で“かなり高め”、石狩湾沿岸、佐渡北方で“かなり高め”～“はなはだ高め”、佐渡北岸で“かなり低め”以外は“平年並み”～“やや低め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“はなはだ高め”、北部では“かなり高め”。

（註）引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- ”はなはだ高め（低め）” : 22年以上に1回の出現確率である2°C程度の高さ（低さ）
- ”かなり高め（低め）” : 7年に1回の出現確率である1.5°C程度の高さ（低さ）
- ”やや高め（低め）” : 3年に1回の出現確率である1°C程度の高さ（低さ）
- ”平年並み” : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5°C程度の水温

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所



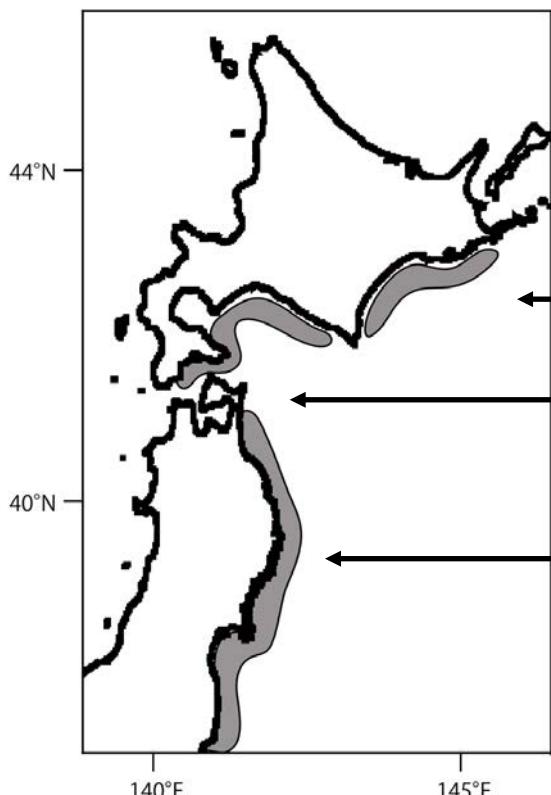
プレスリリース

2021年7月30日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2021年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2021年8月～9月)のポイント



常磐以北太平洋海域のスルメイカの来遊量は前年を下回る。海域別の来遊量、魚体の大きさは以下の通り。

道東太平洋海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前年より小さい。

津軽海峡～道南太平洋海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前年並。

常磐～三陸海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前年より大きい。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜） 森永
浮魚資源部（横浜） 大島、加賀
電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2021年8月～9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2021年級群）

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前年より大きい。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前年並。

3. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：来遊時期は前年より遅い。また、漁場形成は散発的で、明瞭な主漁期は無い。
- (3) 魚体：前年より小さい。

I 予報の説明

2021年5月下旬～7月上旬に実施した太平洋及び日本海のスルメイカ漁場一斉調査と日本海スルメイカ北上期調査¹⁾の結果（図1～3；以降、上記調査をいか釣り調査と総称する）、および5～7月までの漁況経過（表1）を主要な情報として8月～9月のスルメイカの来遊量を予測した。その結果、以下の通り、常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域のいずれも前年を下回ると予測される。予報対象期間における前年の漁獲量は常磐～三陸海域では近年5年（2016年～2020年）平均並であるが、それ以外の海域では近年5年平均を下回った。

¹⁾ 北海道立総合研究機構函館水産試験場が独自に実施。

1. 常磐～三陸海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群れを主体に、津軽海峡を通って来遊する日本海由來の群れが一部含まれると考えられる。三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）におけるいか釣り調査でのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は前年を下回った。各地域における6月までの漁法別の水揚げ量や小型いか釣り漁船CPUE（1日1隻当たり漁獲量）は、前年並もしくは前年を下回っていた場合が多かった。6月の定置網漁業による漁獲量は前年を上回ったものの、7月に入ってからは前年を下回って推移している²⁾。以上のことから、太平洋沿岸域を北上する群れの来遊量は前年を下回ると予測される。6月中旬～7月上旬に日本海の津軽海峡西口周辺海域（39°N～42°N、138°E～140°E）で実施されたいか釣り調査の結果では前年を下回ったことから、日本海由來の来遊量は前年を下回ると予測される。以上の調査結果、およびこれまでの漁況の経過から、常磐～三陸海域への来遊量は前年を下回ると予測される（前年の漁獲量は近年5年平均並）。魚体サイズは、太平洋でのいか釣り調査結果から、前年より大きい個体が主体になると考えられる。

²⁾ 漁業情報サービスセンターによるスルメイカ漁況・市況情報を基に集計

2. 津軽海峡～道南太平洋海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群れと津軽海峡を通って来遊する日本海由來の群れが含まれると考えられる。津軽海峡東口周辺海域（41°N以北、143°E以西）におけるいか釣り調査でのCPUEは前年を下回った。6月に函館港に水揚げした小型いか釣り漁船のCPUEは前年を下回った。また、「1. 常磐～三陸海域」で記述した通り、太平洋沿岸域を北上する群れの来遊量は前年を下回り、日本海由來の来遊量は前年を下回ると予測される。以上のことから、津軽海峡～道南太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測される（前年の漁獲量は近年5年平均の漁獲量を下回った）。魚体サイズは、6月の函館港での水揚げ物のサイズは前年並であったこと²⁾、かつ日本海でのいか釣り調査の結果から判断し、前年並の魚体サイズの個体が主体になると考えられる。

3. 道東太平洋海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合域を北上する群れと考えられる。沖合域（143°E以東）におけるいか釣り調査でのCPUEは前年並であった。一方、有漁点割合は前年を下回った。また、親潮の第1分枝の張り出しあは平年並～かなり北偏で推移し（昨年は極めて北偏で推移、2021年度第2回東北海区海況予報³⁾）、道東沿岸域の水温は前年より低くなると予測されている（図4、水産研究・教育機構の海況予測システムFRA-ROMS⁴⁾）。このことから、前年より道東沿岸域への回遊は遅くなると考えられる。以上のことから、道東太平洋へのスルメイカの来遊量は前年を下回ると予測される（前年の漁獲量は近年5年平均の漁獲量を下回った）。調査CPUEは過去の推移の中でも低い水準にあり、漁場形成は散発的で、明瞭な主漁期はないと予測される。魚体サイズは、沖合域でのいか釣り調査結果から、前年より小さい個体が主体になると予測される。

³⁾ <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/20210618/>

⁴⁾ 国立研究開発法人 水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム。

II 調査結果

1. 太平洋第1次スルメイカ漁場一斉調査

5月下旬～6月下旬に太平洋で実施されたいか釣り調査の結果、調査海域全体の平均 CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は0.02尾であり、前年（0.03尾）を下回った（図1、2）。有漁点割合も19%で前年の24%を下回った。海域別にみると、三陸周辺海域では0.06尾であり、前年の0.08尾を下回った。津軽海峡～道南太平洋海域では0.02尾であり、前年の0.06尾を下回った。沖合域では0.02尾であり、前年の0.02尾並であった。

漁獲物の外套背長組成を海域別にみると、三陸周辺海域では最頻値が15cmで前年（11cm）よりも大型であった（図3）。津軽海峡～道南太平洋海域では24cmのものが1尾見られたが、データが少なく前年と比較することができない。沖合域では最頻値が13cmにあり、前年（14cm）より小型であった。

2. 日本海スルメイカ漁場一斉調査（2021年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報の結果より引用・改編）

6月中旬～7月上旬に津軽海峡西口周辺海域（39°N～42°N、138°E～140°E）で実施されたいか釣り調査の結果、平均 CPUE は0.2尾であり、前年（2.8尾）を下回った。外套背長組成は最頻値15cmの単峰型で、前年（13cmと16cmが高頻度の二峰型）と比較して、平均値としては同程度であった。

3. 移行域幼稚魚調査（参考情報として掲載）

5月上旬～6月上旬に常磐～三陸沖の太平洋で実施された表層トロールネットによる調査の結果、外套背長10cm未満のスルメイカの平均 CPUE（30分曳網当たり漁獲尾数）は5.6尾で、前年（41.8尾）を下回った（図5）。また、全調査点のうち有漁点の割合は59%であり、前年（92%）を下回った。漁獲物の外套背長組成は2～5cmと8cm付近がやや高い幅広な組成で、前年（1cm）より大型であった（図6）。本調査で採集された群れは、本予報期間後半に漁場へ来遊する可能性があるが、CPUEは前年を下回っており（前年比13%）、漁場への来遊の寄与としては大きくないと考えられる。

III 各海域の漁況経過

2007年～2015年の太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）における年間漁獲量¹⁾は7万～16万トンで推移していたが、2016年以降大きく減少し、2018年には1.7万トンまで減少した（図7）。2019年は僅かに増加し、2.2万トンとなり、2020年も同じく2.2万トンであった。主漁場は常磐以北の太平洋海域であり、来遊経路から常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域および道東太平洋海域に区分される。太平洋海域での2020年8月～9月の漁獲量（生鮮）は7.5千トンであり、そのうち常磐～三陸海域では6.2千トン、津軽海峡～道南太平洋海域では0.7千トン、道東太平洋海域では0.3千トンであった（図8）。近年5年（2016年～2020年）平均比は、常磐～三陸海域では91%、津軽海峡～道南太平洋海域では46%、道東太平洋海域では47%であった。なお、根室海峡～オホーツク海と千葉県以南の海域の漁獲量はそれぞれ0.3千トンと0.1千トンであった。

2021年5月～6月の太平洋沿岸主要港での水揚げ量²⁾（生鮮：速報値、一部未集計）は185トンで、前年（528トン）を下回った。常磐～三陸海域の主要港では126トンで、前年（305トン）を下回った。津軽海峡～道南太平洋海域の主要港では17トンで、前年（99トン）を下回った。千葉県以南では43トンで、前年（123トン）を下回った。なお、参画道県における代表的な漁況経過を表1に示した。

¹⁾ 主要港漁獲量を漁業・養殖業生産統計年報の値で引き延ばしているため、図7、図8を含めた漁獲量は全て推定値である。

²⁾ 水揚げ量は単純積み上げした数値。

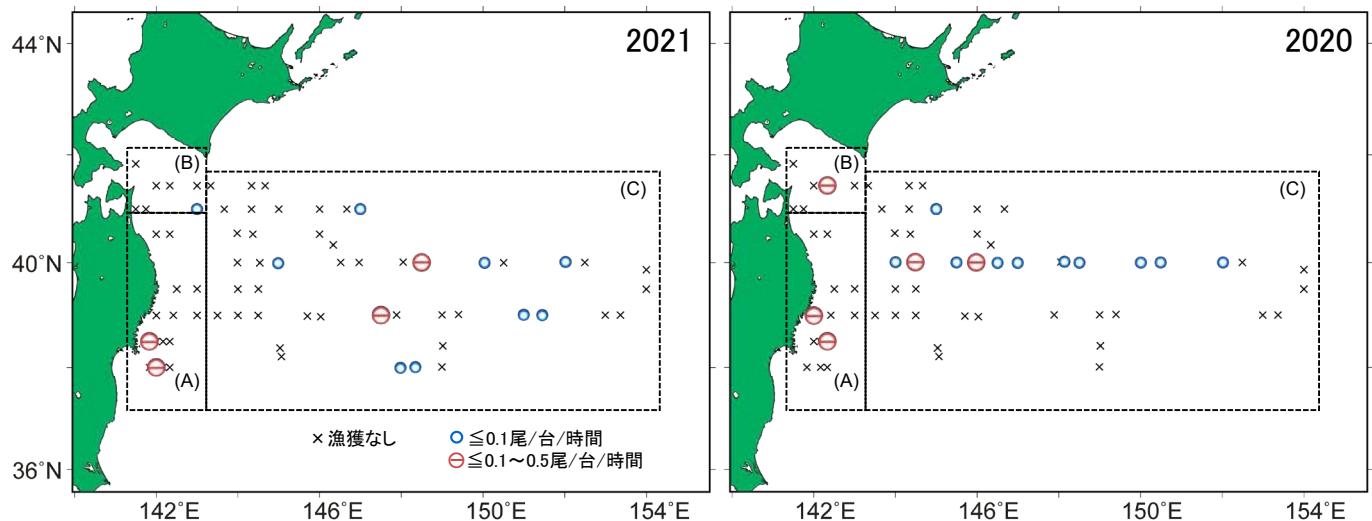


図1. 2020年、2021年5月下旬～6月下旬の太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布

□は0.1～0.5尾/台/時間、○は0.1尾/台/時間以下の有漁点、×は漁獲なしを表す。破線で囲まれた海域は (A) 三陸周辺海域、(B) 津軽海峡～道南太平洋海域、(C) 沖合域を示す

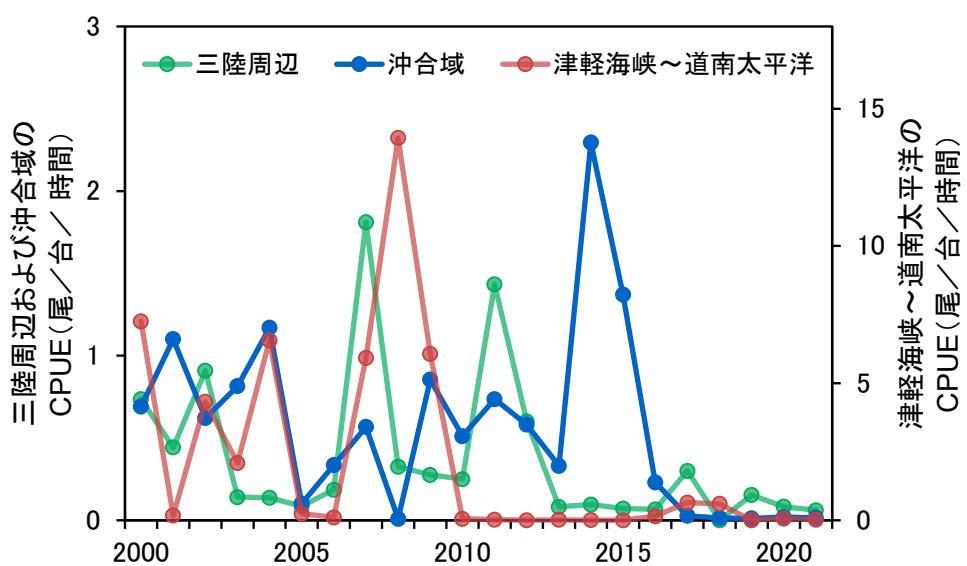


図2. 太平洋におけるいか釣り調査による海域別CPUEの年推移

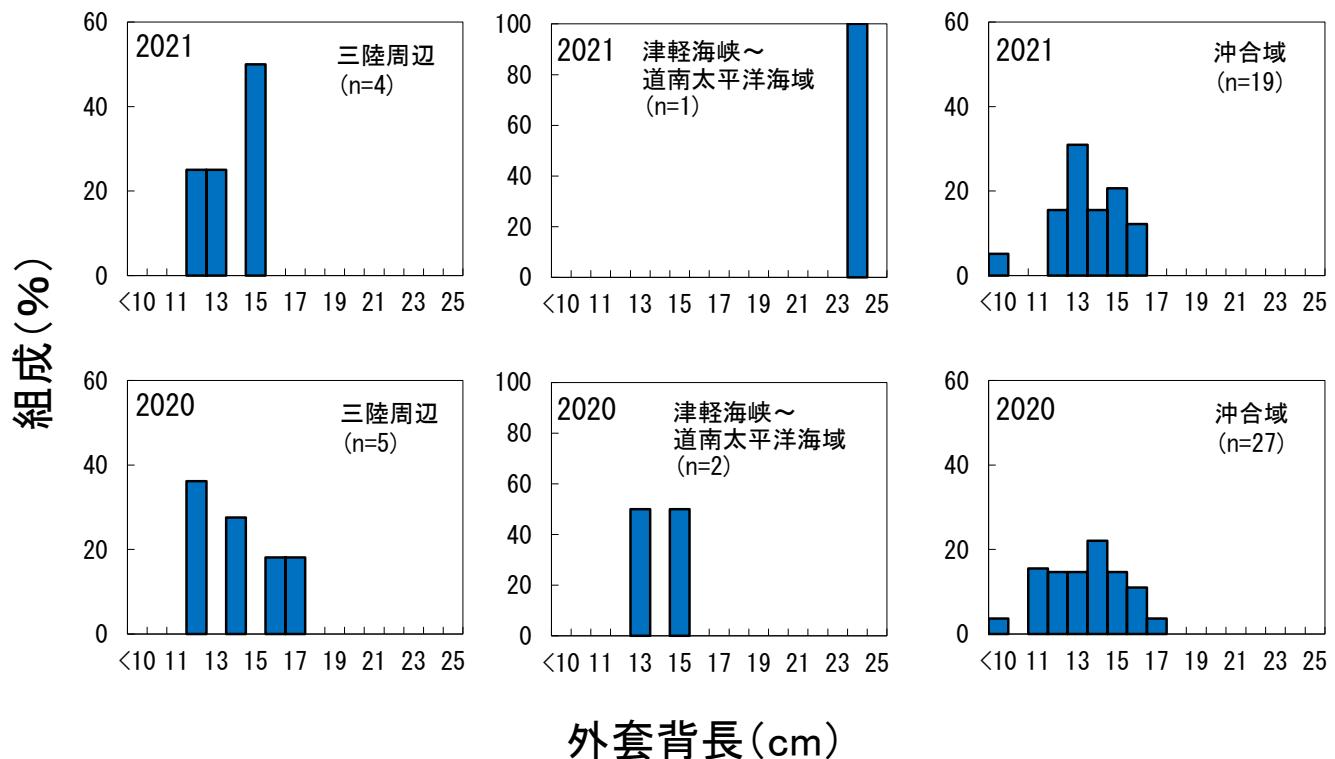


図3. 太平洋におけるいか釣り調査（三陸周辺海域・津軽海峡～道南太平洋海域・沖合域）で採集されたスルメイカの外套背長組成
各調査点の組成をCPUEで重み付け平均した後に全体の組成を作成している
nは測定尾数を示す

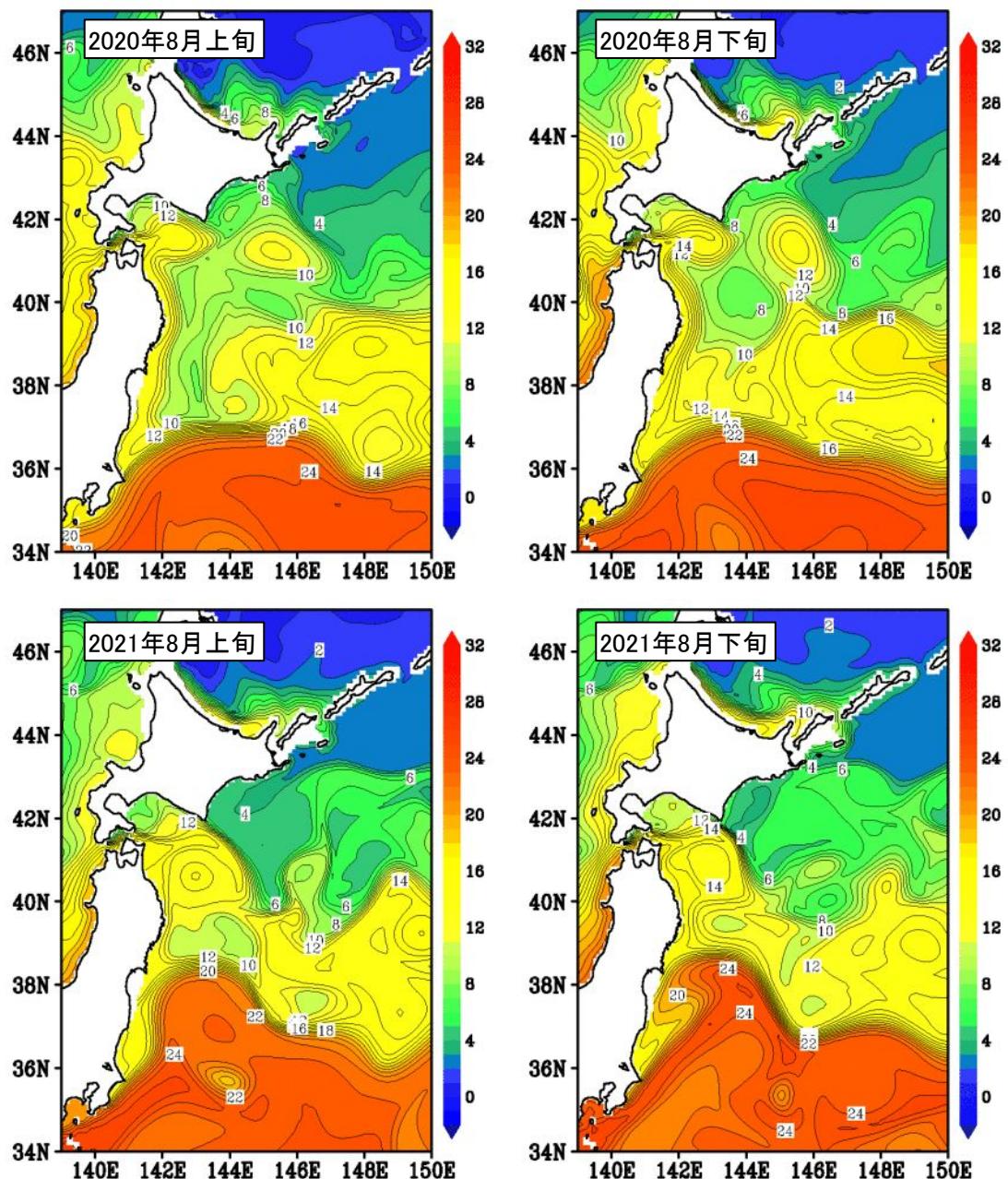


図4. 海況予測システムFRA-ROMSによる2020年、2021年の8月上旬と下旬の深度50mにおける水温（2021年は予測水温）
深度50mはスルメイカの代表的な分布深度

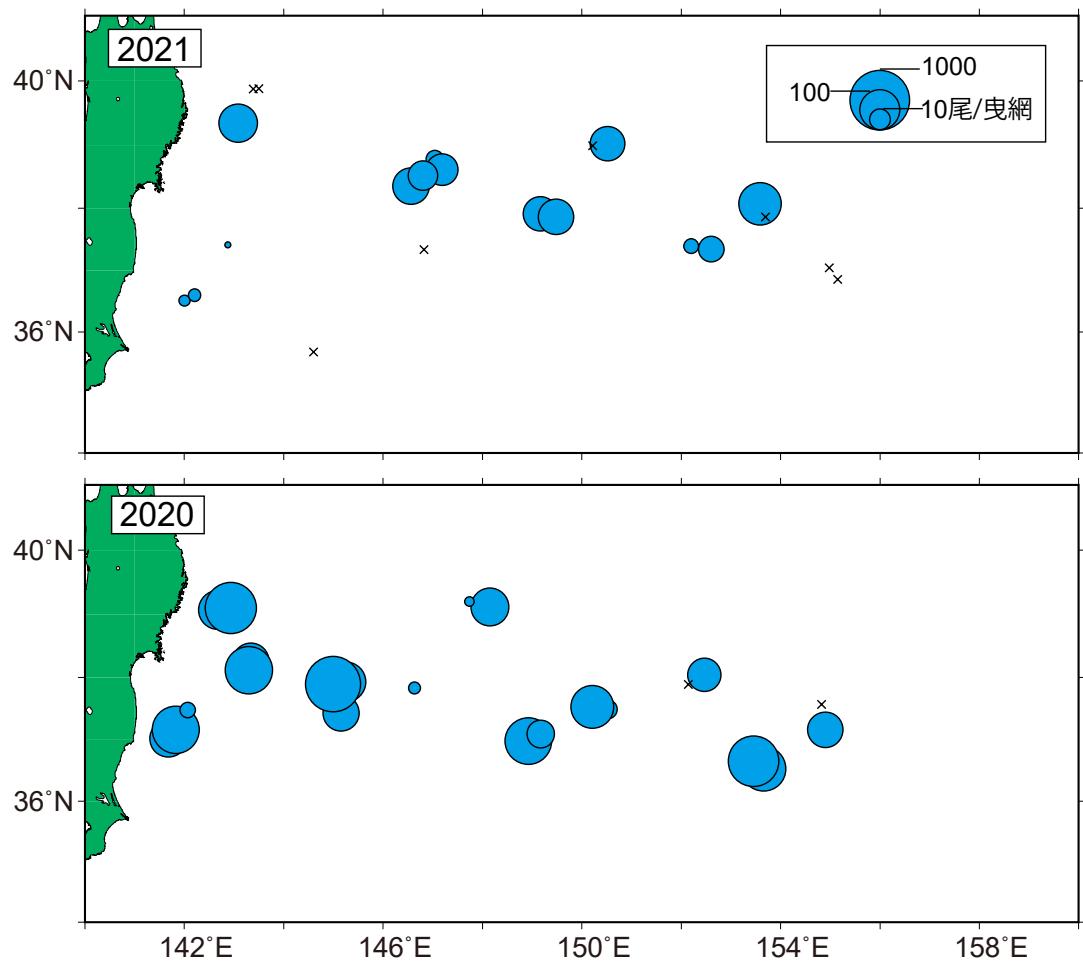


図5. 2020年、2021年5月上旬～6月上旬の太平洋における表層トロールネット移行域幼稚魚調査によるスルメイカのCPUE (30分曳網当たり漁獲尾数) の分布
×は漁獲が無かった点を示す

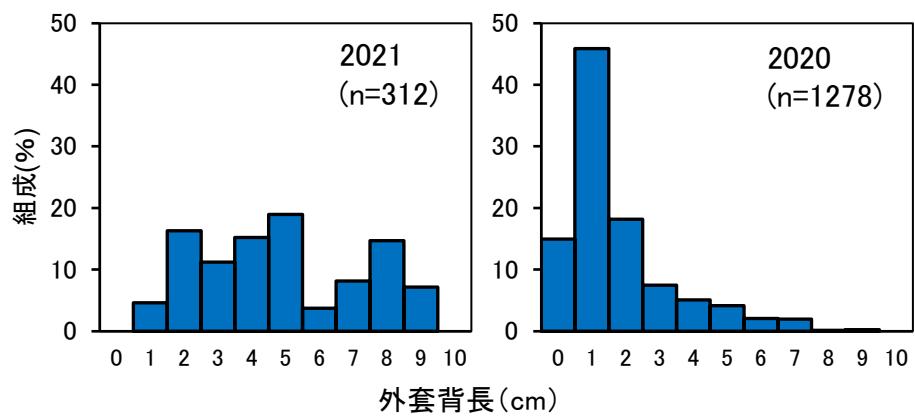


図6. 2020年、2021年5月上旬～6月上旬の太平洋における表層トロールネット移行域幼稚魚調査で採集されたスルメイカの外套背長組成

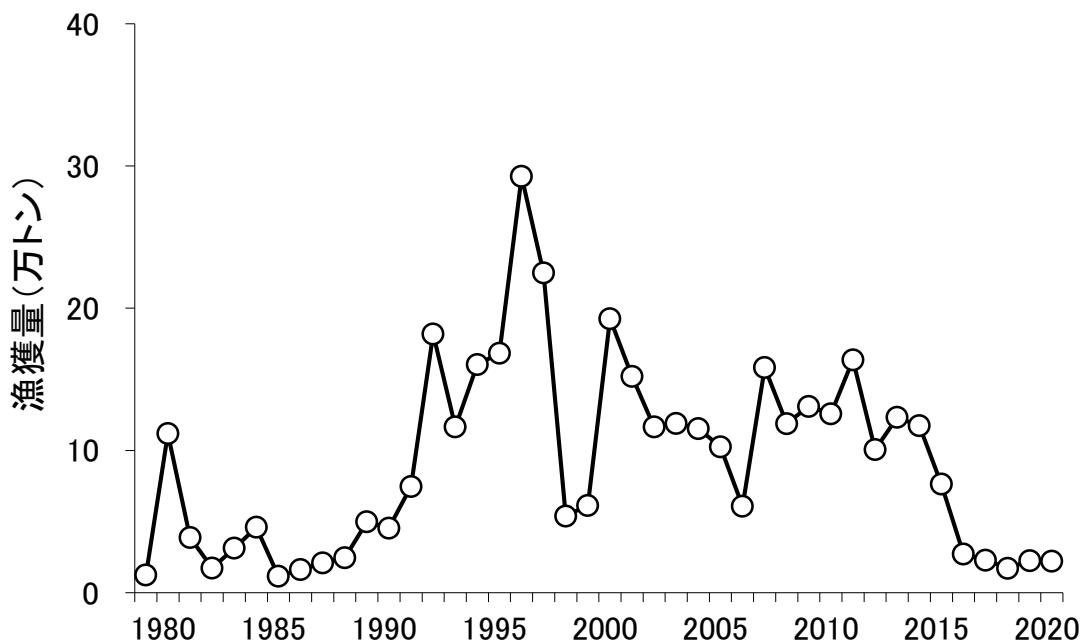


図7. 太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）におけるスルメイカの漁獲量（全漁業の暦年集計）の年推移

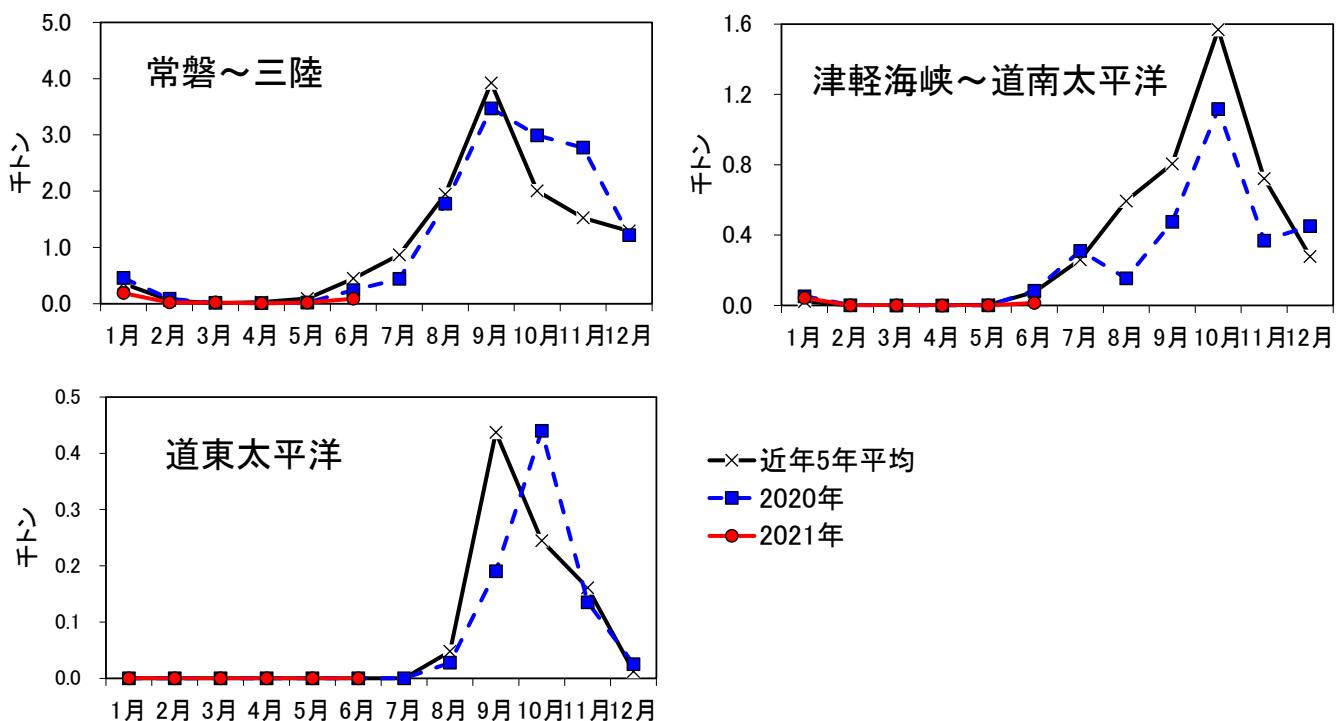


図8. スルメイカの月別海域別の漁獲量（生鮮）
近年5年平均は2016年～2020年の平均
(釣り・定置網・底びき網・まき網)

表1. 漁況経過（2021年5月～7月、一部未集計・暫定データ含む）

	漁況経過
北海道 道東	7月28日の時点で初水揚げはまだない（前年は厚岸で8月10日に初水揚げがあった）。
北海道 道南	6月の函館港への釣りによる水揚げ量は13トン（前年比40%）であった。CPUEは前年比45%であった。
青森	6月の白糠港への釣りによる水揚げ量は1トン（前年比39%）、CPUEは前年比45%であった。 6月の八戸港への釣りによる水揚げはなかった（前年は45 kg）。6月の大畠港への釣りによる水揚げはなかった（前年は0.6トン）。八戸港への底びき網による6月の水揚げ量は20トン（前年比64%）であった。
岩手	6月の主要7港への釣りによる水揚げ量は1.8トンで前年（0.2トン）を上回ったが、CPUEは前年並（前年比84%）であった。底びき網による水揚げ量は0.2トン（前年比6%）で、定置網による水揚げ量は16.6トンで前年を上回った（前年比171%）。漁業情報サービスセンターによるスルメイカ漁況・市況情報では、7月に入ってから定置網の漁獲量は前年を下回って推移している。
宮城	6月の主要10港への底びき網による水揚げ量は23トン（前年比13%）であった。定置網による水揚げ量は20トン（前年比413%）であった。釣りによる水揚げ量は0.03トンであった（前年は無し）。
福島	5月～6月の主要4港への沖合底びき網による水揚げ量は3.9トンであった（前年比243%）。
茨城	5月～6月の主要4港への沖合底びき網による水揚げ量は1.3トン（前年比26%）、小型底びき網による水揚げ量は1トン（前年比29%）であった。
千葉	5月～6月の主要3港への定置網による水揚げ量は3.2トン（前年比66%）、釣りによる水揚げはなかった（前年は7kg）。
神奈川	5月～6月の主要2港への定置網による水揚げ量は0.3トン（前年比202%）であった。6月の間口港への釣りによる水揚げ量は368 kg（前年比542%）、CPUEは前年比391%であった。
静岡	6月の仁科浜港への釣りによる水揚げ量は0.1トン（前年比4%）であった。CPUEは前年比19%であった。
三重	5月～6月の奈屋浦港への中型まき網による水揚げ量は2トン（前年比3%）であった。5月の主要2港への定置網による水揚げ量は0.7トン（前年比30%）であった。和具港への釣りによる水揚げはなかった（前年もなし）。
和歌山	6月のすさみ港への釣りによる水揚げ量は4トン（前年比249%）、CPUEは前年比99%であった。
高知	5月～6月の主要3港への釣りによる水揚げはなかった（前年もなし）。

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産資源研究所</p> <p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>神奈川県水産技術センター</p>	<p>静岡県水産・海洋技術研究所</p> <p>三重県水産研究所</p> <p>和歌山県水産試験場</p> <p>高知県水産試験場</p> <p>一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	--



プレスリリース

2021年7月30日

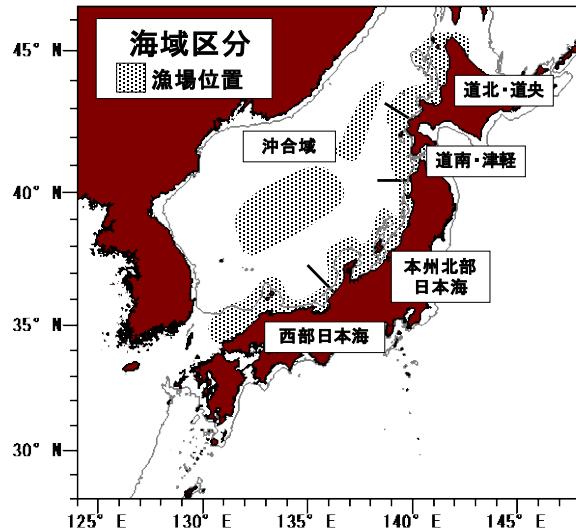
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2021年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2021年8月～12月) のポイント

- 今期の全体の来遊量は前年および近年平均を下回る。
- 道北・道央では前年および近年平均を下回る。
- 道南・津軽では前年および近年平均を下回る。
- 本州北部日本海では8月まで漁場が形成されるが前年および近年平均を下回る。
- 西部日本海では8月まで漁場が形成され、前年および近年平均並。
- 沖合域では前年および近年平均を下回る。漁場は、北海道西沖では形成されにくく、大和堆周辺海域では形成されても安定しない。



* 近年は最近5年間(2016年～2020年)

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜） 森永
浮魚資源部（横浜） 大島、久保田
電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2021年8月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

1. 道北・道央（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：今期の前半は前年および近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：8月までと10月～11月に来遊のピークがある。

2. 道南・津軽（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：8月までに来遊のピークがある。

3. 本州北部日本海（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：前年同様、8月まで漁場が形成される。

4. 西部日本海（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年および近年平均並。

(2) 漁期・漁場：前年同様、8月まで漁場が形成されるが、10月～12月は漁場が形成されにくい。

5. 沖合域（いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年および近年平均を下回る。

(2) 漁場：北海道西沖では形成されにくい。大和堆周辺海域では形成されても安定しない。

* 道北・道央（宗谷～後志）、道南・津軽（渡島、檜山、青森県）、本州北部日本海（秋田県～石川県）、西部日本海（福井県～長崎県）、沖合域（北海道西沖～大和堆周辺海域）。

* 近年平均は最近5年間（2016年～2020年）の平均、前年は2020年を示す。

I 予報の説明

2021年6月までの日本海沿岸各地の漁況の経過、6月中旬～7月上旬に実施した日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果、冬季発生系群を主体とした太平洋側への来遊状況（2021年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報）、および9月までの海況予報（2021年度 第2回 日本海海況予報）を情報として、今期の漁況を予測した。

1. 道北・道央（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では、近年、7月～8月と10月～11月に漁獲量のピークがある。前半は秋季発生系群が主対象であり、後半は夏季に日本海を北上した後、南下する群のほか、道東・オホーツク海から宗谷海峡を経由して来遊する冬季発生系群も漁獲対象となる。

【今期の情報と予報の説明】 日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果では、本海域の分布量は例年になく少なく、前年を下回った。本海域における6月の漁獲量は、前年および近年平均を下回った。また、日本海スルメイカ漁場一斉調査において、今後、当海域に北上してくると考えられる道南・津軽海域の分布量も前年を下回った。以上のことから、今期前半の来遊は前年および近年平均を下回ると予測される。今期後半については冬季発生系群が漁獲の対象に加わるが、現時点では宗谷海峡からの来遊量に関する判断材料が揃わないため予測ができない。

2. 道南・津軽（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では近年、6月～8月に漁獲量のピークがある。また、11月～12月には、夏季に日本海を北上した後、南下する群のほか、太平洋側から津軽海峡を経由して来遊する冬季発生系群を対象とした漁獲のピークができる場合がある。

【今期の情報と予報の説明】 日本海スルメイカ漁場一斉調査による本海域での分布量は前年を下回った。本海域における6月の漁獲量も、前年および近年平均を下回った。今期後半の本海域への来遊量に関する太平洋側の9月までの来遊は、前年を下回ると予測されている。以上のことから、今期の来遊は前年および近年平均を下回ると予測される。

3. 本州北部日本海（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では、近年、5月～7月が漁期の中心で、8月～11月には好漁場が形成されない。12月の漁場形成には、海況の影響が大きいと考えられる。

【今期の情報と予報の説明】 7月中旬時点において、能登半島周辺および佐渡周辺で漁場が継続して形成されており、8月も漁場が形成されると予測されるものの、本海域における6月までの漁獲量は前年および近年平均を下回っており、来遊量は多くはない予測される。また、今期後半の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）は前年および近年平均を下回っており、今期後半に沖合から来遊する群は前年より少ないと予測される。なお、12月の漁況は沖合冷水の張り出しとの関係が大きく、現時点では来遊量を予測できない。以上のことから、今期は前半での来遊がある程度継続するものの、全体としては前年および近年平均を下回ると予測される。

4. 西部日本海（小型いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 本海域では10月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となる。ただし、近年は10月～12月の南下群の来遊が少なく、漁場が形成されにくい。

【今期の情報と予報の説明】 本海域での6月の漁獲は前年および近年平均を上回った。また7月中旬時点において、福井県沖および兵庫県沖で漁場が形成されていることから、前年および前々年のように8月にも漁場が形成されると予測される。一方で、今期後半の来遊量の目安となる日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUEは前年および近年平均を下回っており、今期後半に沖合から来遊する群は前年より少なく、近年同様10月～12月には漁場が形成されにくくと予測される。以上のことから、今期全体としては前年および近年平均並と予測される。

5. 沖合域（いか釣り）

【近年の漁況の特徴】 沖合域では従来、6月～12月にかけて大和堆周辺海域に漁場が形成され、また水温の高い8月下旬～9月には北海道西沖にも漁場が形成されてきた。しかし、2000年代以降漁場が北偏化し、8月～11月は主に北海道西沖に漁場が形成され、大和堆周辺海域では6月～7月および11月～12月に漁場が形成される年が多くなった。さらに2019年以降は、これまでの傾向と異なり、大和堆や北海道西沖で漁場が安定して形成されず、能登半島周辺や佐渡沖が主漁場となる場合がある。

【今期の情報と予報の説明】 日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果による本海域の分布量は、前年を下回った。また、2019年以降の分布量（漁場一斉調査の沖合域の平均CPUE）は、極めてCPUEが高い数点で引き上げられる影響が大きく（II-1-1）にて詳述）、広く分布が見られた2018年以前とは状況が異なることに注意を要する。以上から、今期の本海域への来遊は前年および近年平均を下回ると予測される。また日本海スルメイカ漁場一斉調査における沖合域での分布は前年に類似し、さらに北海道西沖での分布量が極めて少ないと予測される。

II 予報に用いた主要な情報および調査結果

1. 日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海におけるスルメイカ秋季発生系群の分布状況を、日本海側の7道県および水産研究・教育機構による調査船でのいか釣り試験操業（6月中旬～7月上旬に実施）によって調べた（図1）。

1) 分布状況

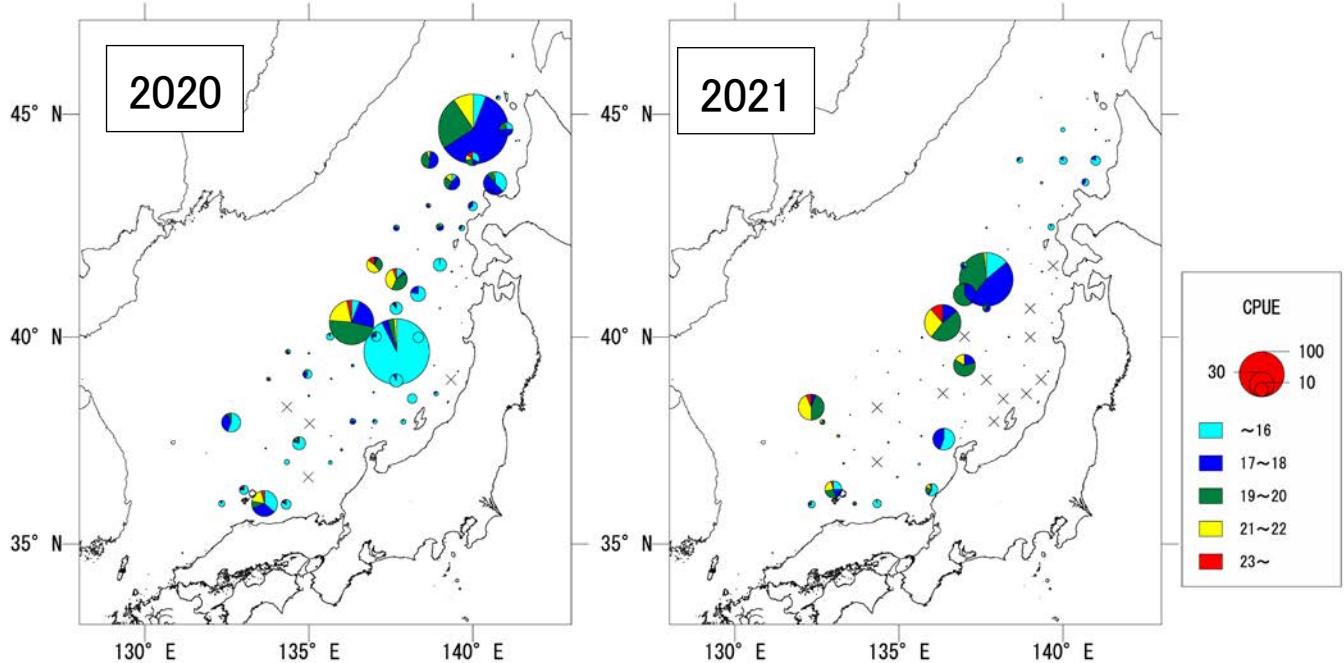


図1 日本海におけるスルメイカの分布状況（2020年と2021年の調査結果）

図中×は漁獲がなかった点を示し、●の面積は各調査点の分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）を示す。また各色は各外套背長範囲(cm台)の比率を示す

- (1) 道北・道央海域では、外套背長14cm台～17cm台の個体を中心に採集された。例年、当該海域は本調査においてスルメイカが相対的に高密度で分布する海域であったが、今期は分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）は最大でも5尾と、例年と異なり分布量が極めて少なかった。
- (2) 道南・津軽海域では、外套背長14cm台～16cm台の個体を中心に採集された。CPUEは檜山沖の2尾が最大で、他の点は0.1尾以下で、漁獲のない点もあった。
- (3) 本州北部日本海では、外套背長15cm台～18cm台の個体を中心に採集された。CPUEは能登北西の点で24尾であったほかは0.2尾を下回り、漁獲のない点もあった。
- (4) 西部日本海では、外套背長12cm台～22cm台まで、幅広いサイズの個体が採集された。CPUEは隱岐北西の点で15尾、福井県沖の点で8尾の他は4尾を下回り、漁獲のない点もあった。

(5) 沖合域では、外套背長18cm台～20cm台を中心に採集された。CPUEは北緯41度20分、東経137度40分の点での143尾が最大で、次いで北緯40度20分、東経136度20分の点で65尾となった。分布の傾向は例年とは異なるが、前年と類似した。すなわち、例年CPUEの高い大和堆周辺では低く、大和堆から北東に外れた沖合域で高い傾向にあった。また漁獲のない点もあった。

以上のように、今期の本調査の分布で例年と大きく異なる点として、①北海道西沖での分布が極めて少ないとこと、②大和堆周辺海域での分布が極めて少ないと一方、大和堆から北東に外れた沖合域で分布密度が高かったことが挙げられる。このうち、②については前年から引き続いて観察された傾向であった。さらに2019年以降、沖合域や西部日本海に分布密度の高い調査点がいくつかある一方で、漁獲が極めて少なかった、もしくは漁獲がなかった調査点が多いことに注意を要する。

2) 全調査点の平均 CPUE

本調査の全調査点の平均CPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）を日本海への来遊量の目安として示した。日本海スルメイカ漁場一斉調査の平均CPUEは、1980年代には低かったが1990年代に上昇し、2000年～2002年には3年連続して20尾を越えた（図2）。2003年以降は概ね15尾前後で推移していたが、近年は低下傾向にあった。2021年は5.43尾で、前年（14.32尾）および近年平均（10.98尾）を下回り、また近年の中でも低かった2019年（7.40尾）も下回った。

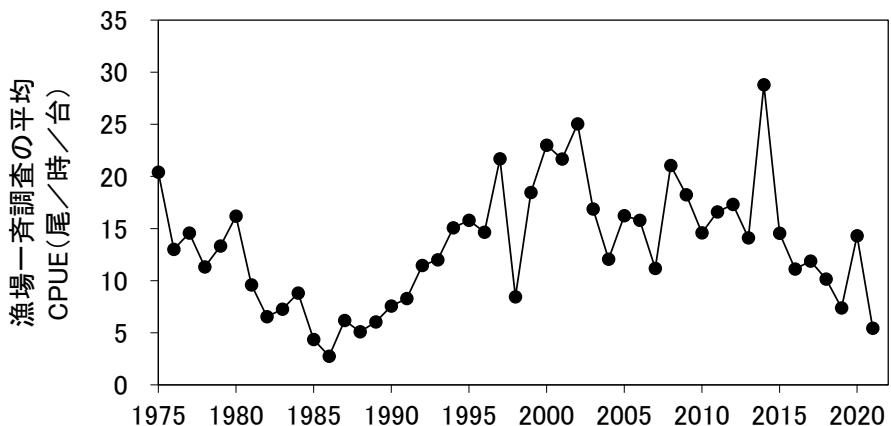


図2 日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）の推移

3) 魚体の大きさ

日本海スルメイカ漁場一斉調査の全調査点の平均CPUEで重み付けした外套背長組成を図3に示す。2021年は18cm台～19cm台に外套背長組成のモードがあった。外套背長組成のモードは前年より大きく、近年平均程度であった。

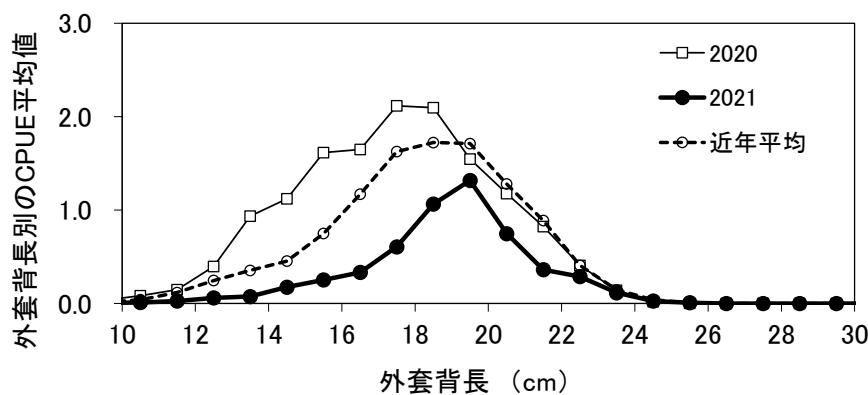


図3 日本海スルメイカ漁場一斉調査結果によるCPUE重み付け平均外套背長組成
各外套背長階級の値は釣機1台1時間あたりの平均採集尾数を示す

2. 2021年6月までの日本海各海域の漁況の経過

2021年6月までの各海域の月別漁獲量を図4に示す。2021年4月以降の漁獲量（4海域合計）を月別に見ると、4月は前年並であったが5月以降前年および近年平均を下回った。道北・道央では、例年通り6月に漁獲が開始され

たが、6月の漁獲量は前年および近年平均を下回った。道南・津軽でも例年通り6月から漁獲が本格化したが、6月の漁獲量は前年および近年平均を下回った。本州北部日本海での漁獲量は、4月は前年並で、5月以降前年および近年平均を下回った。本州北部日本海での漁場の中心は前年と同様、能登半島周辺であった。西部日本海での漁獲量は、4月は前年および近年平均を下回ったが、その後増加し、6月には前年および近年平均を上回った。以上のように、いか釣り漁業が主体となる生鮮スルメイカの漁獲は6月まで全般に少なかった。その一方、2019年および2020年に主に石川県以北の底びき網漁業でスルメイカの漁獲が増加傾向^{*)} であったところ、2021年漁期も同様の傾向が見られている（詳細は未集計）。

*1) 2020年度スルメイカ秋季発生系群資源評価 <http://abchan.fra.go.jp/digests2020/details/202019.pdf>

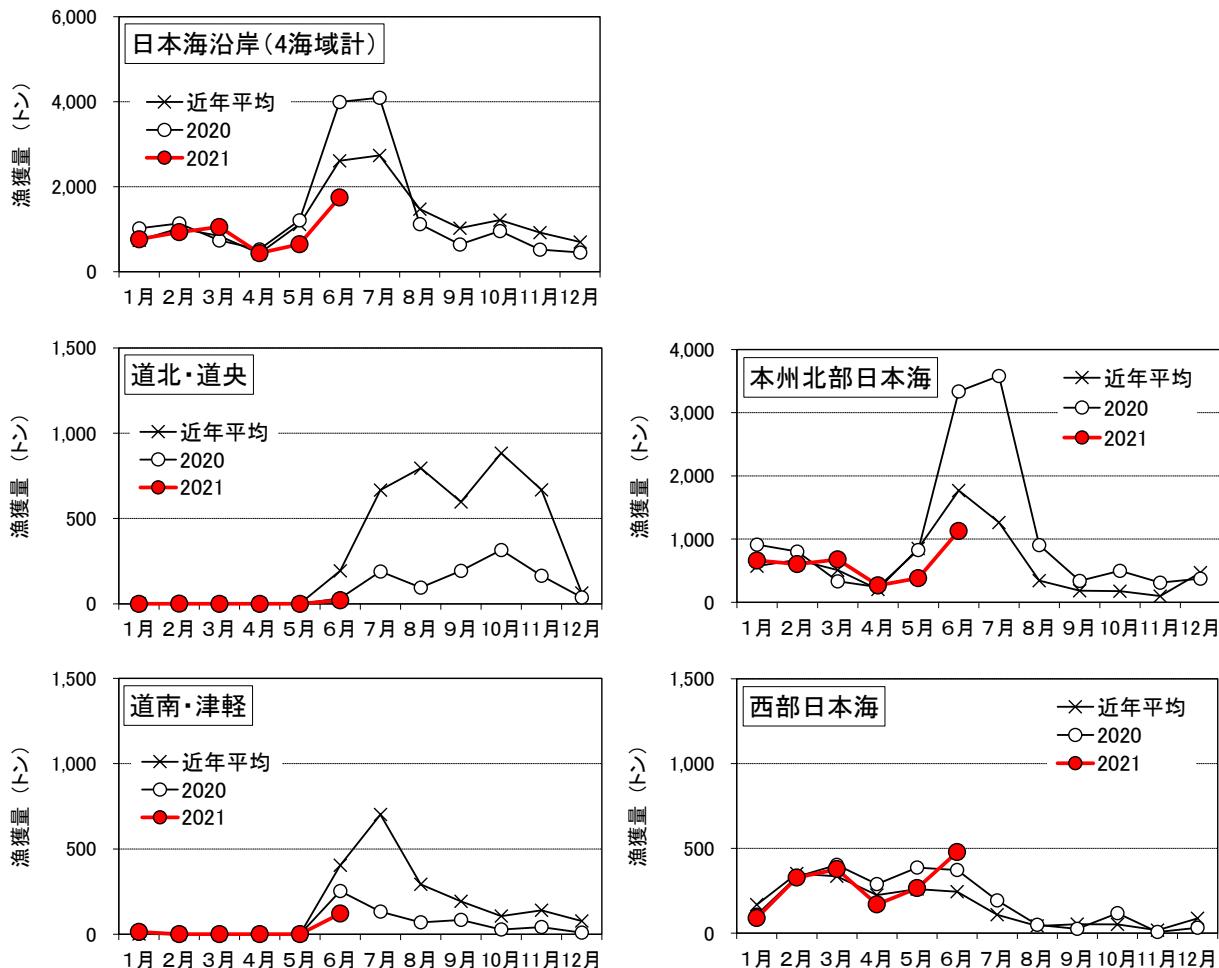


図4 日本海各海域の生鮮スルメイカの主要港漁獲量
各道府県試験研究機関および漁業情報サービスセンターの資料より作成

3. 太平洋側（冬季発生系群）の資源状況

太平洋側には主にスルメイカ冬季発生系群が分布する。これらは10月以降、宗谷海峡および津軽海峡を経由して日本海に来遊するため、太平洋側の漁況は10月以降の日本海の漁況に深く関係する。

2021年度第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報（7月30日発表）では、8月～9月の太平洋側への来遊は、道東太平洋海域、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域のいずれの海域でも前年を下回ると予測されている。

4. 日本海の海況予測

2021年度第2回日本海海況予報^{*)}（7月9日発表）によれば、7月中旬～9月の対馬暖流域の表面水温は“平年並み”^{**)}、対馬暖流域の50m深水温は日本海西部及び北部とともに“かなり高め”^{**)}と予測されている。

*) <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/20210709/index.html>

**) “平年並み”は2年に1回の出現確率で、平年値±0.5°C程度の水温。“かなり高め”は7年に1回の出現確率で、平年値から1.5°C程度の高さ。

参画機関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 函館水産試験場 稚内水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産研究所	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	長崎県総合水産試験場
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関)
福井県水産試験場	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

<いか関連 7/10～新聞記事の概要（抜粋）>

みなと新聞（7月15日）

福岡市場 6月生鮮ヤリイカ2.3倍14万箱 7月は入荷失速も日7000箱

【福岡】生鮮ヤリイカ（ケンサキイカ）が好調なペースで入荷している。6月の取扱量は、前年同月比2・3倍の14万箱（1箱当たり約4キロ、10～40尾入り）前後。単月では今年最多の取り扱いとなった。平均箱値は1～2割安の4500円前後。前年同月は品薄高傾向だった。1尾当たりのサイズは、今春に比べ小型化している。7月上旬はシケなどの影響で、日量1000箱ほどに留まった。中旬以降は、日量5000～7000箱の入荷に回復し始めているが、7月の累計入荷量は6月を下回る見通し。

みなと新聞（7月15日） 水産経済新聞（7月16日）

韓国スルメイカ21年漁期2100トン減枠

日本のEEZとまたがり資源となる韓国EEZのスルメイカの2021年漁期（21年7月～22年6月）TACについて、同国海洋水産部は前年度当初設定から1万2096トン減の7万3834トンで施行の準備をしていたが、1万トンを戻して8万3834トンで最終決定した。結果、前漁期当初から2096トンの減枠となる。12日付で施行。

20年漁期の韓国漁船の漁獲量は最終的に3万3000トン弱。21年漁期のTAC設定について韓国の業界は算定方法に問題があると指摘していた。大きな問題として、中国漁船の違法操業による乱獲、沿岸国の漁獲量情報がなく全体の資源量が分からずでTAC設定は非合理的と指摘する。

みなと新聞（7月20日）

スルメイカ能登沖一大和堆分布低調 石川県6月調査 夏の漁獲増に期待

石川県水産総合センターは6月14～21日、調査船白山丸でスルメイカのイカ釣調査を行った。調査海域は能登半島沖から大和堆周辺（日本海中央部）の7地点で、同センターは「日本海中央部のスルメイカ分布量は低い水準だった」と説明。また「スルメイカの分布、回遊経路が大きく変化していると考えられる」とし、「夏の漁獲増に期待できるのではないか」としている。今回の調査で、CPUEは0・02～0・15だった。全調査点の平均CPUEは0・06で、前年の1・1、過去5年平均の11・9をともに下回ったことから「6月の日本海中央部のスルメイカ分布量は低い水準だったと考えられる」とした。スルメイカの魚体サイズの指標となる外套長の平均値は18・1センチで、前年（16・6センチ）を上回り、過去5年平均（17・9センチ）並みだった。

水産経済新聞（7／20日）

日本海スルメ上向く 中型船で1日300箱超も

同漁は序盤の6月は低調で、1日1隻当たりの生産量は1桁か2桁（8kg）に留まっていたが、7／7頃より大和堆での漁が上向き、現在16隻ほどが操業中で、多い船で300～400箱を生産する日もあるという。26／30、31／35サイズが中心。

水産経済新聞（7／21日）

船凍アカイカ水揚げ開始 【八戸】減産見込みで序盤ジリ高

北太平洋公海でアカイカ漁を行っていた中型船が帰港し、水揚げが始まった。初入札が行われたのが13日で、1.4万箱、平均単価は3,517円と昨年を8%下回った。

水産経済新聞（7／28日）

IUU撲滅へ全魚種を対象に 輸入水産物の規制対象で提言

IUU漁業対策フォーラムは、IUU撲滅に向けて「水産物国内流通適正化法」の輸入水産物の対象魚種決定に向けての提言書を作成し、水産庁へ提出した。リスクの高い魚種を公平かつ明確な指標をもとに選定し、魚種拡大に向けたロードマップを提示する必要性を指摘している。

水産経済新聞（7／28日）

全国スルメ5月日本海地区振るわず 生鮮・冷凍合わせ48%減

JF全漁連によると5月の全国のスルメイカの水揚げは生鮮・冷凍合わせて前年同月比48%減の661トンにとどまった。生鮮の平均単価は13%高の671円/kg（冷凍はほぼ水揚げなし）、1～5月の累計では、生鮮・冷凍計で25%減、3,920トンとなった。

水産経済新聞（8／3日）

日本海・太平洋スルメ 前年を下回る来遊予想

水産研究・教育機構は、30日2021年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予測と第1回太平洋スルメイカ長期漁況予測を公表した。

いずれの内容も当月の組合報に原文を掲載する。

水産経済新聞（8／4日）

アカイカ大幅減産へ 中型船は1航海で終了

船凍アカイカの夏季操業は、2航海目がほぼ見送られることになり、減産が確定的な情勢になった。大半の船は2航海目に日本海のスルメイカ漁を選択した。要因は昨年に比べて北太平洋海域（アカイカ）が不調であったことと、同じ不良なら単価の高いスルメイカを選択した方が、採算性が良いという判断のよう。

みなと新聞（8月7日）

生鮮スルメイカ 7月5割減1240トン 8月も漁低調続く見通し

生鮮スルメイカの水揚げが振るわない。漁業情報サービスセンターによると、7月の全国主要港水揚量は前年同月比5割減の1,239トン。うち、水揚量が最多の金沢は24%減の718トンだった。新潟が7割減の68トン、青森県八戸が22トン、山形県酒田が20トンと昨年200トンを超える全体をけん引した3港がいずれも9割減だった。

日本海側は北陸・能登半島以北の群れが薄く、サイズも小さい。同センターは「（親魚の）産卵時期が遅れたことなどが要因」と説明。「金沢、新潟の水揚げサイズは5割が1尾200グラム前後、4割が1尾160～170グラムだった」 太平洋側は青森県の八戸、三沢などに水揚げ。同センターによると、三沢の水揚げサイズは200グラム前後が4割、160～170グラムが4割強だった。

太平洋側は青森県、北海道東が水揚げの中心になるが、同センターは「沿岸の漁模様は厳しくなる」とし、低調に推移すると予想する。サイズは160～200グラムが減り、250グラム前後が増える見込み。

みなと新聞（8月10日） 水産経済新聞（8月11日）

中国船1～7月564隻に退去警告 水産庁 大和堆周辺海域

水産庁は6日、日本海の大和堆周辺海域における外国船への対応状況について発表した。1～7月に外国漁船に実施した退去警告隻数は前年同期比246隻増の564隻で、今年は全て中国船だった。警告隻数のうち放水措置を実施したのは98隻だった。6月以降は昨年並みまで勢いは途切れているが、漁模様が好転すれば再度大挙して来る可能性も指摘されている。

みなと新聞（8月11日）

南米アカイカ豊漁 ペルー5月累計30倍 21万トン超 対日増の公算

水産研究・教育機構水産資源研究センター阿保純一主任研究員は6日、東京都内で講演し、加工原料に使われるアメリカオオアカイカやアカイカなどの近年の資源状況や各国の漁獲動向について説明した。今年、ペルーが漁獲する南米アカイカは豊漁が見込まれる他、日本が夏から秋にかけて漁獲するアカイカは、

操業隻数が少ないとから水揚量は昨年の半分程度になるとみている。

南米アカイカは主に南米諸国や中国などが漁獲、2004年以降の各国合計の年間漁獲量は60万トン以上で推移している。主にペルーやチリ、中国が漁獲し、3カ国合計の漁獲量は全体の約9割を占める。

ペルーは自国の排他的経済水域（EEZ）が主漁場で、同国の資源調査結果からも「ペルー海域での資源状況は健全だと考えられる」とした。今年の漁獲も好調な模様で、21年5月までの冷凍向け南米アカイカ水揚量は21・6万トンと、前年同期の約30倍のペースで漁獲が進むとした。

アカイカ資源安定も夏秋漁は半減か

日本や中国が漁獲しているアカイカは、主に東経175度以東の北西太平洋に分布し、夏から秋にかけて漁獲する「秋生まれ群」は近年資源状況が安定。ただ、海洋調査などから今年の資源状況は「昨年より少し劣る」見込みだ。近年は中国の漁獲量も急増しており、今後の資源への影響も懸念される。今年は船凍アカイカ船が1航海目の操業で終漁し、2航海目は日本海でスルメイカを漁獲する船が多いことから「資源量にかかわらず今年のアカイカ水揚量は昨年の半分程度になるのでは」とした。

また、東経175度以西に分布し、中国船主体に秋から冬にかけて漁獲する「冬春生まれ群」は資源状況が低位で、「今年も回復の兆しは見られない」とした。

全国いか加工業協同組合が主催した「2021年度いか漁海況研修会」で講演。研修会では他にも、同機構担当者から同機構が7月30日に発表した日本海・太平洋海区のスルメイカ漁況予報について説明。水産庁加工流通課は、違法に漁獲された水産物の国内流通や国内流入などを防ぐ「水産流通適正化法」の概要や、同法の施行で期待される効果を説明した。

2021年6月

第164回 中小企業景況調査報告書 (2021年4-6月期) <全産業編>

※D Iとは…

「好転」と回答した企業の割合−「悪化」と回答した企業の割合。D I値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

中小企業基盤整備機構 総合情報戦略課

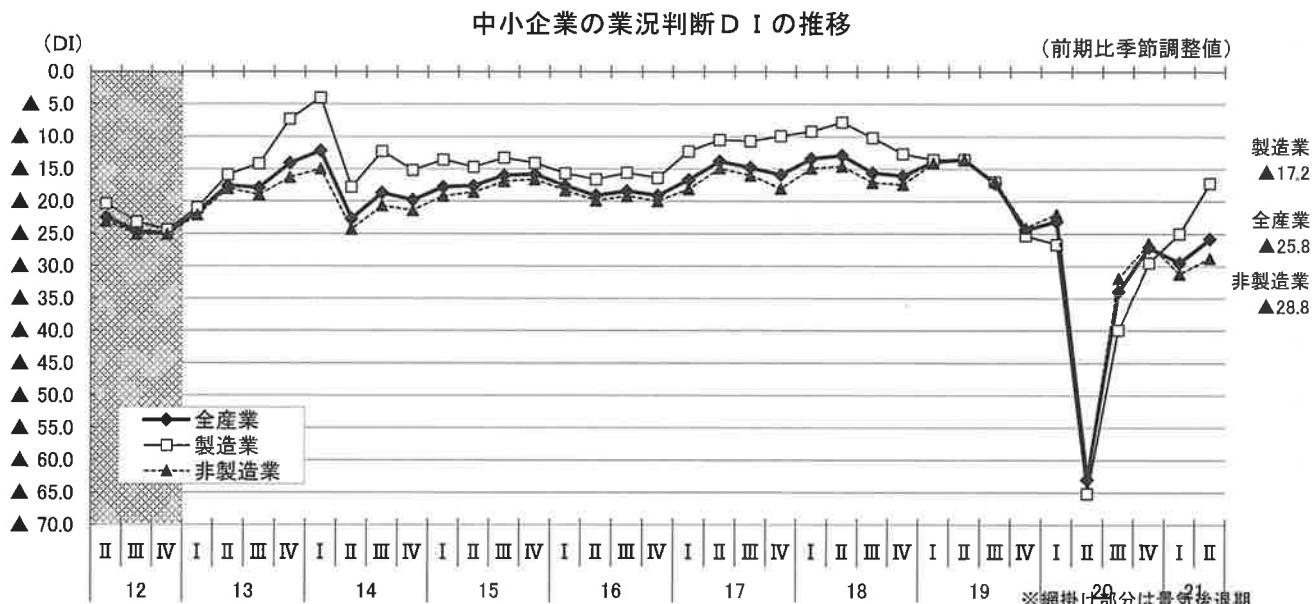
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1

TEL:03-5470-1521(ダイヤルイン)

URL:https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html

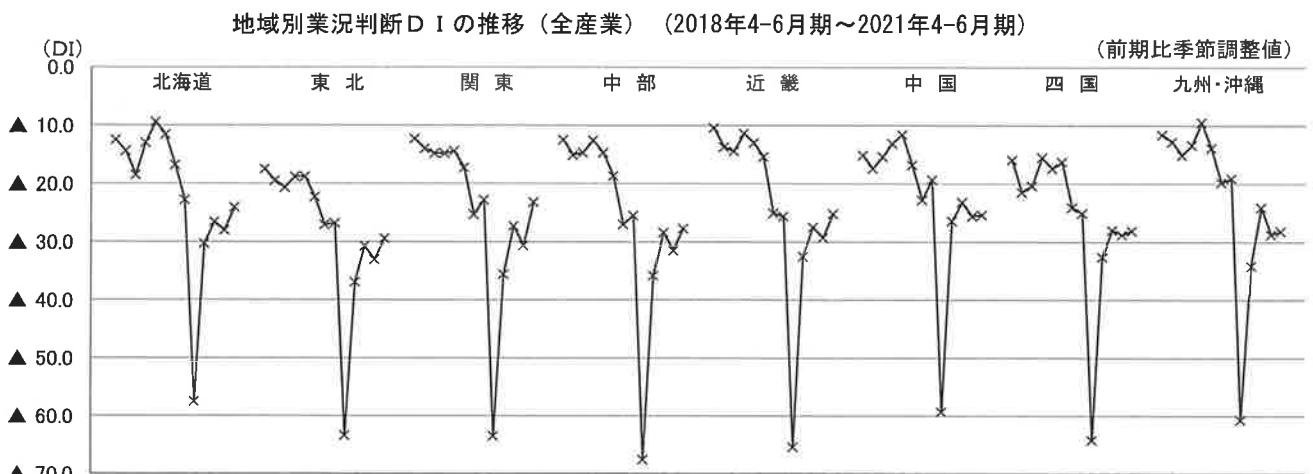
中小企業の業況判断D Iは、2期ぶりに上昇した。

前期と比べた全産業の業況判断D Iは、2期ぶりに上昇した。(▲29.5→▲25.8)



< 地域の業況 >

関東、近畿、北海道、中部、東北、四国、九州・沖縄、中国のすべての地域でマイナス幅が縮小した。



(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合−前期に比べて「悪化した」企業の割合

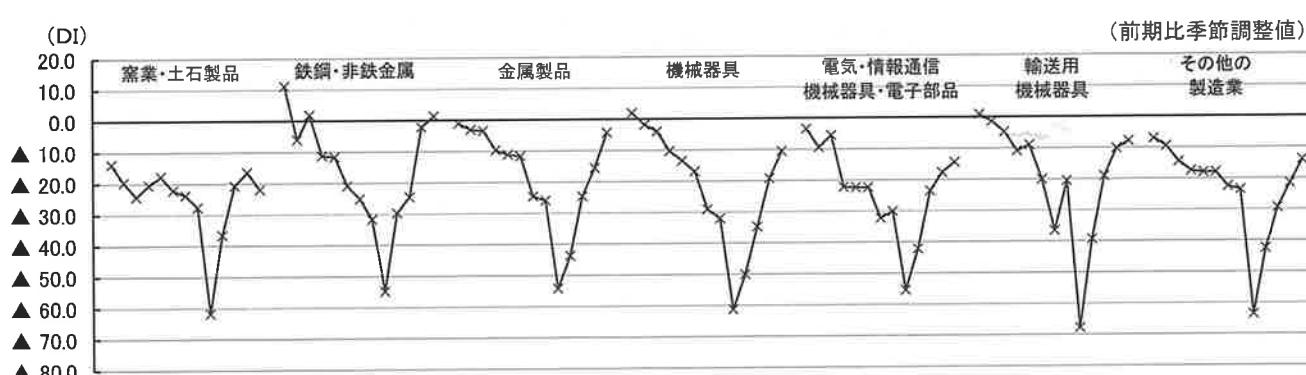
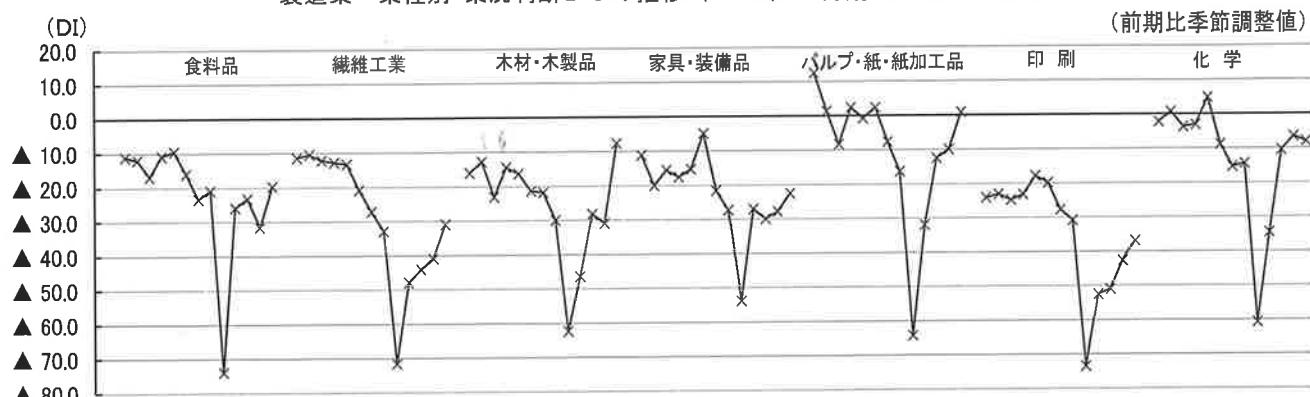
1. 業況判断DI

(1) 製造業

製造業の業況判断DIは、(前期▲25.0→) ▲17.2 (前期差7.8ポイント増)と4期連続してマイナス幅が縮小した。

製造業の14業種の内訳では、パルプ・紙・紙加工品で0.9 (前期差10.8ポイント増)など2業種でマイナスからプラスに転じ、木材・木製品で▲7.6 (前期差23.3ポイント増)、食料品で▲19.7 (前期差11.9ポイント増)など10業種でマイナス幅が縮小し、窯業・土石製品で▲22.0 (前期差5.5ポイント減)など2業種でマイナス幅が拡大した。

製造業 業種別 業況判断DIの推移 (2018年4-6月期～2021年4-6月期)

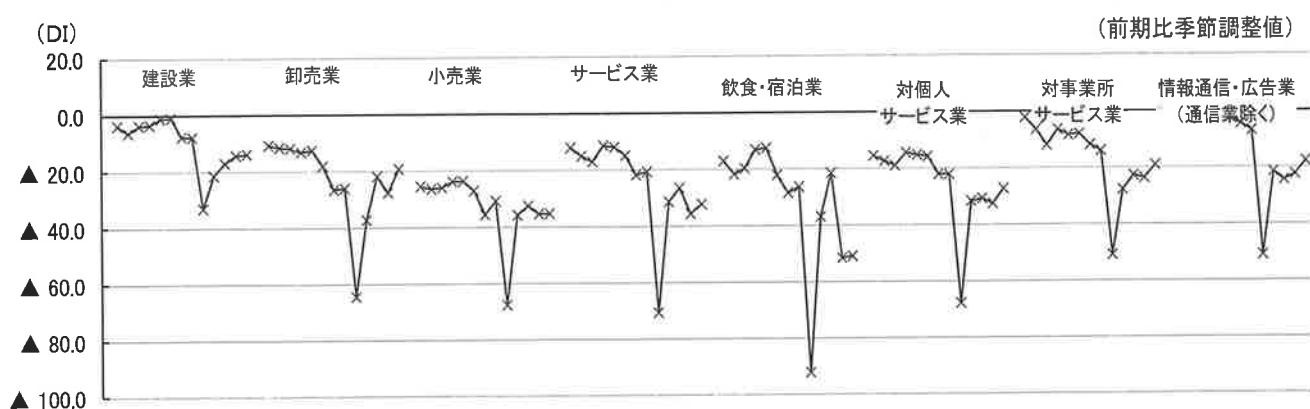


(2) 非製造業

非製造業の業況判断DIは、(前期▲31.2→) ▲28.8 (前期差2.4ポイント増)と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別に見ると、卸売業で▲19.3 (前期差8.4ポイント増)、サービス業で▲32.3 (前期差3.3ポイント増)、建設業で▲13.9 (前期差0.4ポイント増)、小売業で▲35.3 (前期差0.1ポイント増)といずれもマイナス幅が縮小した。

非製造業 産業・業種別 業況判断DIの推移 (2018年4-6月期～2021年4-6月期)



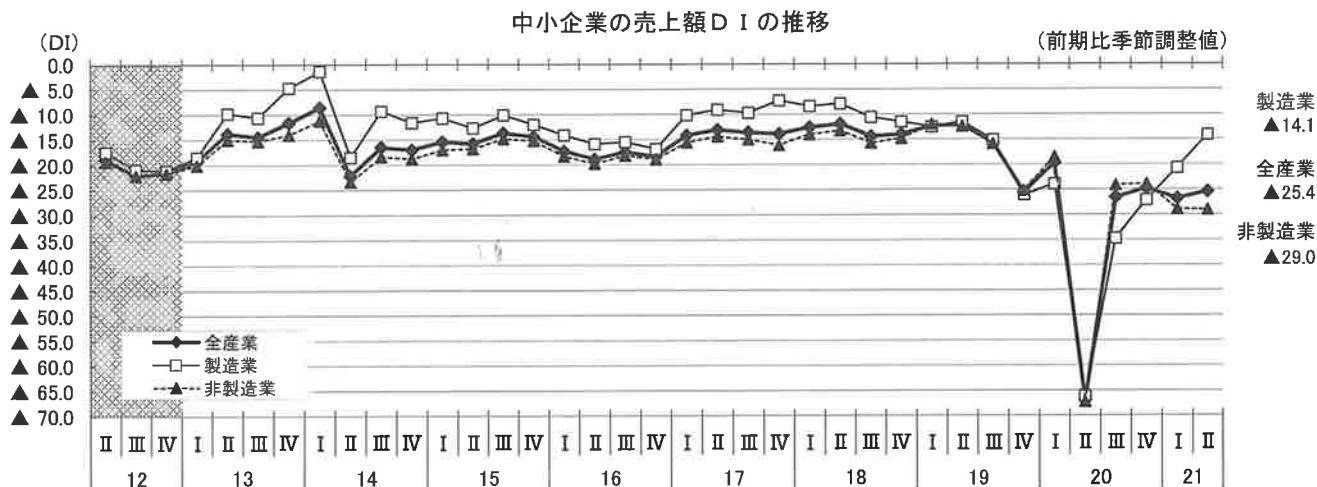
(注) 「対個人サービス業」は、洗濯・理容・美容・浴場業、自動車整備業等の9業種。

「対事業所サービス業」は、道路貨物運送業、倉庫業、廃棄物処理業等の10業種。

2. 売上額DI

全産業の売上額DIは、(前期▲26.8→) ▲25.4 (前期差1.4ポイント増)と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。

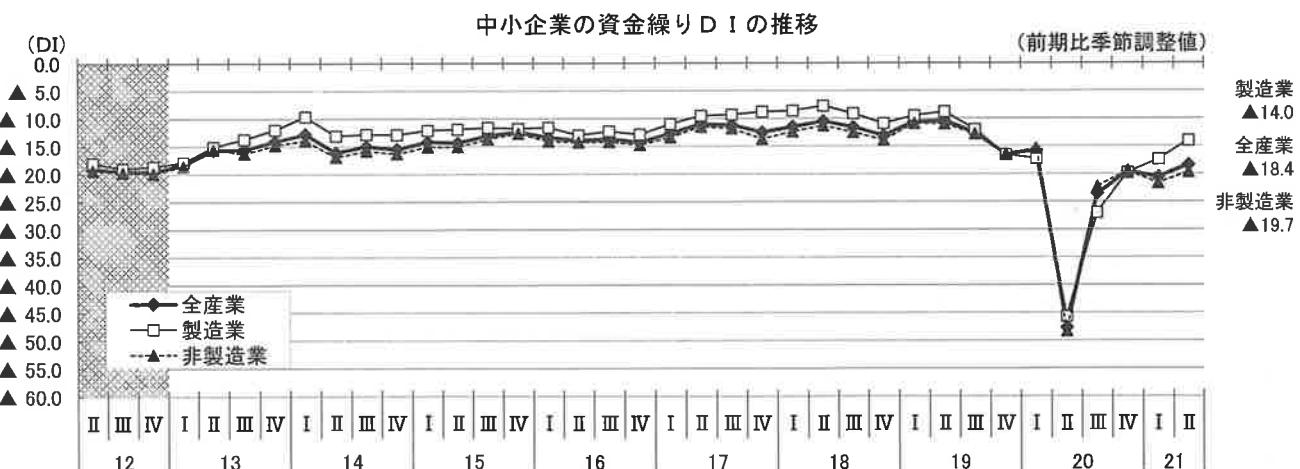
産業別に見ると、製造業で(前期▲20.7→) ▲14.1 (前期差6.6ポイント増)と4期連続してマイナス幅が縮小し、非製造業で(前期▲28.9→) ▲29.0 (前期差0.1ポイント減)と2期連続してマイナス幅が拡大した。



3. 資金繰りDI

全産業の資金繰りDIは、(前期▲20.6→) ▲18.4 (前期差2.2ポイント増)と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別に見ると、製造業で(前期▲17.4→) ▲14.0 (前期差3.4ポイント増)と4期連続してマイナス幅が縮小し、非製造業で(前期▲21.7→) ▲19.7 (前期差2.0ポイント増)と2期ぶりにマイナス幅が縮小した。



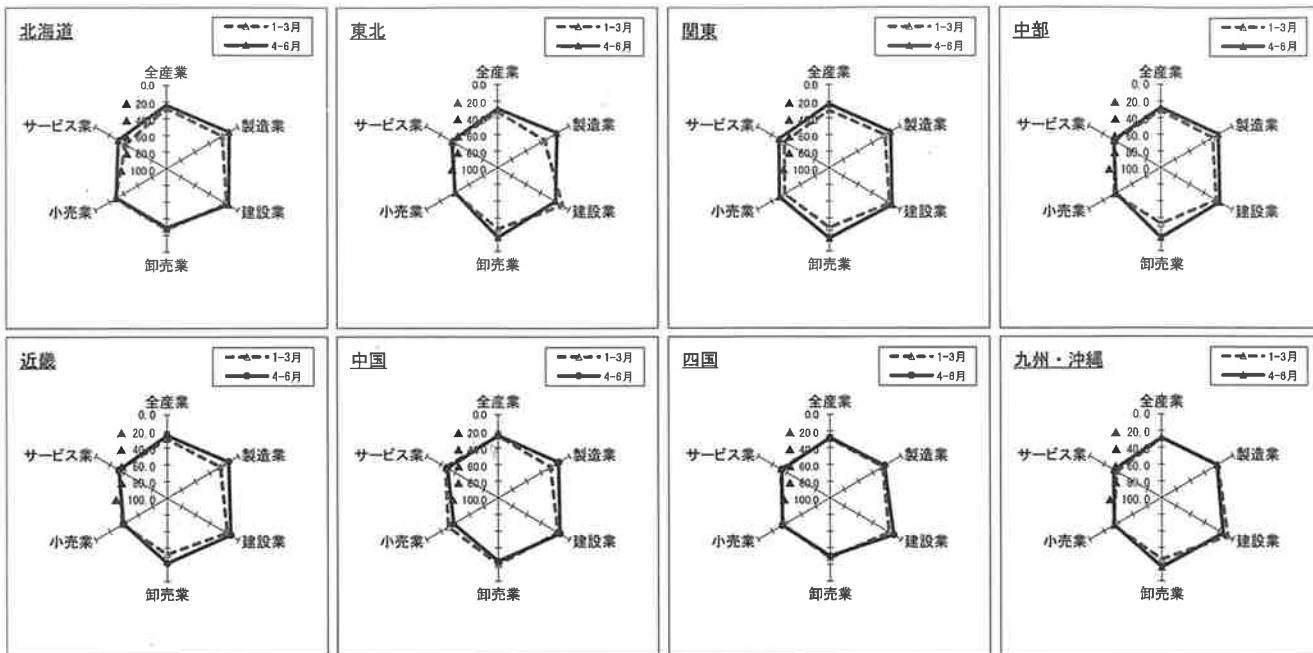
4. 設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、全産業で17.7% (前期差0.5ポイント増)と増加した。

設備投資実施企業割合 (実施企業/回答企業×100) 単位: %

	実 績						来期計画
	2020年 4~6月期	7~9月期	10~12月期	2021年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	
全 産 業	14.8	18.5	19.7	17.2	17.7	18.2	
製 造 業	17.8	19.8	21.1	19.3	19.5	23.7	
建 設 業	21.0	22.2	23.0	21.7	22.9	18.8	
卸 売 業	16.7	20.0	21.1	19.3	19.7	19.4	
小 売 業	9.2	14.3	15.1	12.2	12.4	12.5	
サ ー ビ ス 業	13.9	18.9	20.7	17.2	17.8	17.9	

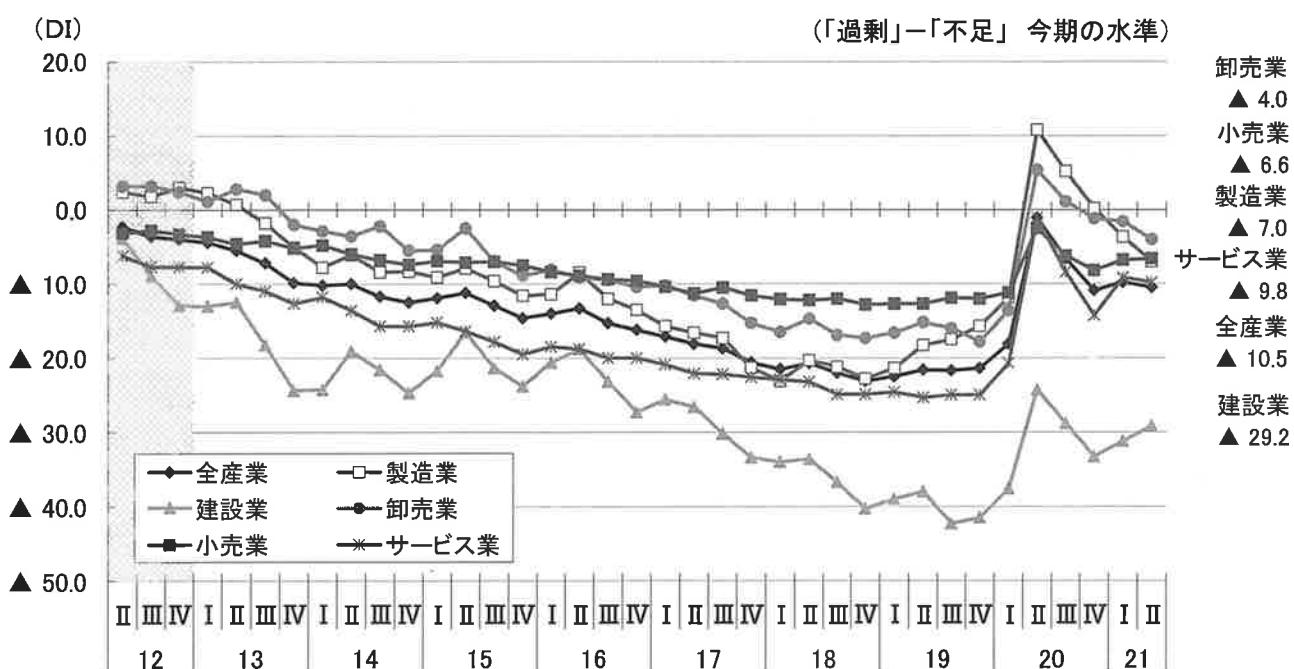
5. 各地域における産業別の動向



〈トピックス〉 従業員数過不足DI（今期の水準）の推移について

全産業の従業員数過不足DI（「過剰」－「不足」、今期の水準）は、（前期▲9.8→）▲10.5（前期差0.7ポイント減）と2期ぶりにマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。産業別に見ると、建設業、小売業でマイナス幅が縮小し、製造業、卸売業、サービス業でマイナス幅が拡大した。

産業別従業員数過不足DIの推移



〔調査要領〕

- (1) 調査時点：2021年6月1日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聞き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,920のうち有効回答数18,245（有効回答率96.4%）

I . 令和3(2021)年5月 全国イカ水揚集計表(全漁連)

単月 5月

2021年5月

2020年5月

単位 数量: トソ 単価: 円/k g

種類	2021年5月				2020年5月			
	生鮮	冷凍	合計	生鮮	冷凍	合計	数量	
数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	
スルメイカ	659	671	2	791	661	671	1,280	
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	
S A イカ	0	0	0	0	0	0	0	
アカイカ	0	0	0	0	0	0	0	
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	
その他イカ(トビイカ)	0	0	0	0	0	0	0	
小計	659	671	2	791	661	671	1,280	
輸入				7,748			592	
合計	659		2	8,409			905	
				1,280			1,282	
							593	

累計 1月～5月

2021年1月～5月

2020年1月～5月

単位 数量: トソ 単価: 円/Kg

種類	2021年1月～5月				2020年1月～5月			
	生鮮	冷凍	合計	生鮮	冷凍	合計	数量	
数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	
スルメイカ	2,732	652	1,188	656	3,920	653	4,222	
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	
S A イカ	0	0	0	0	0	0	0	
アカイカ	1	330	30	368	31	367	3	
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	
その他イカ(トビイカ)	0	0	0	0	0	0	0	
小計	2,733	652	1,218	649	3,951	651	4,225	
輸入				33,431			623	
合計	2,733		1,218	37,382			1,114	
				4,225			36,227	

資料:全漁連、財務省貿易統計

II. いか輸入 国別通関実績 令和3(2021)6月

(1) 冷凍いか (除くもんごう)

国名	令和3年6月合計		令和3年1月～6月累計		令和2年6月合計	令和2年1月～6月累計	
	数量kg	金額千円	数量kg	金額千円		数量kg	金額千円
1 韓国	4,560	3,522	50,064	36,912	5,040	4,107	124,738
2 中国	3,688,123	2,300,341	20,176,787	12,221,199	4,058,382	2,317,745	20,024,876
3 台湾	211,403	85,453	259,810	99,908	0	0	0
4 香港	0	0	0	0	0	0	0
5 ベトナム	228,875	247,503	1,177,032	1,251,633	335,735	373,515	1,407,203
6 タイ	124,433	161,738	782,967	998,769	201,610	274,217	1,207,018
7 マレーシア	0	0	22,447	17,702	7,849	8,351	36,743
8 フィリピン	72,083	91,294	299,573	382,347	38,752	43,599	408,091
9 インドネシア	7,637	11,388	223,163	281,640	33,656	40,279	248,579
10 カンボジア	0	0	0	0	0	0	0
11 ミャンマー	46,719	42,778	154,222	180,053	10,277	16,764	77,444
12 インド	40,770	43,796	515,819	565,978	149,687	168,908	652,294
13 パキスタン	13,117	24,632	22,507	41,930	422	751	1,994
14 スリランカ	0	0	39,702	39,021	23,301	25,179	105,090
15 イラン	0	0	0	0	0	0	0
16 オマーン	0	0	0	0	0	0	0
17 デンマーク	0	0	0	0	0	0	0
18 英国	0	0	0	0	0	0	0
19 フランス	0	0	0	0	0	0	0
20 スペイン	0	0	0	0	0	0	0
21 ロシア	503,782	183,091	4,066,637	1,484,322	103,153	42,404	2,281,372
22 ギリシャ	0	0	0	0	0	0	0
23 アメリカ	166,630	75,249	1,561,787	622,353	433,162	191,109	2,078,075
24 メキシコ	0	0	0	0	0	0	0
25 バナマ	0	0	0	0	0	0	0
26 カナダ	0	0	61,930	19,406	0	0	156,560
27 セントビンセント	0	0	0	0	0	0	0
28 エクアドル	0	0	0	0	0	0	0
29 ペルー	1,940,711	336,280	7,564,090	1,321,345	641,192	181,435	4,158,700
30 チリ	1,638,598	226,246	3,788,437	586,704	1,340,607	291,348	4,426,406
31 ウルグアイ	0	0	0	0	0	0	0
32 アルゼンチン	715,229	238,297	1,898,898	648,458	350,559	173,988	805,835
33 フォーカランド諸島及びその付属諸島	7,480	8,788	81,457	88,875	18,406	16,479	116,592
34 モロッコ	0	0	82,474	65,890	0	0	111,124
35 カナリー諸島（西）	0	0	0	0	0	0	0
36 モーリタニア	0	0	0	0	0	0	0
37 ガーナ	0	0	0	0	0	0	0
38 セネガル	0	0	0	0	0	0	0
39 ソマリア	0	0	0	0	0	0	0
40 南アフリカ共和国	0	0	0	0	0	0	0
41 オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0
42 パプアニューギニア	0	0	0	0	0	0	0
43 ニュージーランド	25,998	11,424	36,991	22,921	105,720	34,031	317,271
合計	9,436,148	4,091,820	42,866,794	20,977,366	7,857,510	4,204,209	38,746,005
							22,911,104

II. いか類輸入 国別通関実績 令和3（2021）年6月

(2) 乾燥・塩蔵・塩水漬け

国名		令和3年6月合計		令和3年1月～6月累計	
		数量kg	金額千円	数量kg	金額千円
1	韓国	0	0	0	0
2	中国	140,609	280,003	609,272	1,206,824
3	台湾	0	0	0	0
4	ベトナム	0	0	0	0
5	タイ	8,170	39,468	54,030	276,484
6	フィリピン	0	0	0	0
7	インドネシア	0	0	0	0
8	スペイン	0	0	0	0
9	イタリア	0	0	0	0
10	カナダ	0	0	0	0
11	アメリカ	0	0	29,860	60,332
12	メキシコ	0	0	0	0
13	ロシア	0	0	0	0
14	ペルー	0	0	4,720	4,968
15	アルゼンチン	0	0	0	0
16	ニュージーランド	0	0	0	0
合計		148,779	319,471	697,882	1,548,608

令和2年6月合計		令和2年1月～6月累計	
数量kg	金額千円	数量kg	金額千円
0	0	0	0
165,980	308,611	1,019,656	2,042,231
0	0	0	0
0	0	0	0
12,910	69,834	49,920	253,444
0	0	0	0
0	0	5,485	29,981
70	218	95	540
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	18,032	36,653
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	21,240	28,649
0	0	0	0
250	1,735	470	3,359
179,210	380,398	1,114,898	2,394,857

II. いか類輸入 国別通関実績 令和3(2021)年6月

(3) 調製品

国名	令和3年6月合計		令和3年 1月～6月累計	
	数量kg	金額千円	数量kg	金額千円
1 韓国	4,000	2,749	31,644	35,271
2 中国	4,069,509	2,402,521	20,774,350	12,330,736
3 台湾	396	438	396	438
4 ベトナム	95,448	57,504	412,119	256,107
5 タイ	86,038	113,984	438,261	594,370
6 シンガポール	0	0	0	0
7 マレーシア	0	0	0	0
8 フィリピン	0	0	0	0
9 インドネシア	0	0	0	0
10 ミャンマー	0	0	0	0
11 インド	0	0	0	0
12 スリランカ	0	0	0	0
13 ノルウェー	0	0	0	0
14 スイス	0	0	0	0
15 ポルトガル	0	0	0	0
16 スペイン	3,694	5,325	11,059	21,338
17 イタリア	70	206	70	206
18 アメリカ	0	0	0	0
19 メキシコ	0	0	0	0
20 ペルー	69,100	24,102	405,247	138,111
21 チリ	0	0	0	0
22 アルゼンチン	0	0	0	0
23 オーストラリア	0	0	0	0
24 ニュージーランド	0	0	0	0
合計	4,328,255	2,606,829	22,073,146	13,376,577

令和2年6月合計		令和2 1月～6月累計	
数量kg	金額千円	数量kg	金額千円
800	584	32,017	46,887
3,562,754	2,269,304	19,070,780	11,863,961
0	0	0	0
54,531	32,839	362,988	222,689
48,913	162,506	228,525	670,773
0	0	0	0
0	0	4,130	1,989
0	0	0	0
1,520	740	20,504	10,713
0	0	0	0
0	0	8,040	4,339
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
2,010	5,234	5,413	13,575
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
66,024	35,142	504,191	226,802
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
3,736,552	2,506,349	20,236,588	13,061,728

III. 農林水産統計

1. 農地水産物流通統計 合和3(2021)年5月

(1) 月別上場水揚量・価格

年 月	するめいか 生		するめいか 冷・近		するめいか 冷・遠		あわいか 生		あわいか 冷		合計
	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	
平成25(2013)年	78,239	253	28,532	349	705	238	29	112	2,196	422	109,701
平成26(2014)年	73,735	249	24,933	337	157	331	6	184	4,652	348	103,477
平成27(2015)年	54,391	257	22,294	378	484	279	2	244	2,995	318	80,166
平成28(2016)年	23,563	519	19,911	641	797	398	2	249	3,162	479	47,455
平成29(2017)年	18,703	543	17,056	602	—	—	7	333	4,112	541	39,878
平成30(2018)年	15,153	530	11,133	611	—	—	1	355	4,632	481	30,919
令和元(2019)年	16,776	658	2,647	860	—	—	5	220	7,152	455	26,580
令和2(2020)年	18,069	526	3,990	781	—	—	11	205	7,228	364	29,238
平成28年 1月	1,233	323	1,948	429	—	—	0	67	3	391	3,184
平成28年 2月	789	360	1,144	465	—	—	1	192	—	—	1,934
平成28年 3月	731	397	1,297	488	—	—	1	281	3	233	2,029
平成28年 4月	375	417	—	—	—	—	0	234	—	—	375
平成28年 5月	518	350	50	518	797	398	0	216	—	—	1,365
平成28年 6月	904	325	37	380	—	—	—	—	—	—	941
平成28年 7月	1,243	382	1,911	410	—	—	0	216	1,272	413	4,426
平成28年 8月	3,953	426	2,316	568	—	—	0	216	1,882	525	8,151
平成28年 9月	7,419	471	1,807	657	—	—	0	214	1	124	9,227
平成28年 10月	3,064	716	2,781	766	—	—	0	290	—	—	5,843
平成28年 11月	1,736	854	3,327	899	—	—	0	264	0	454	5,063
平成28年 12月	1,618	823	3,293	731	—	—	0	323	1	188	4,913
計	23,583		19,911		797		2		3,162		47,453
平成29年 1月	410	692	958	752	—	—	0	251	1	570	1,369
平成29年 2月	279	602	231	835	—	—	0	441	39	486	549
平成29年 3月	190	529	376	849	—	—	0	383	482	582	1,048
平成29年 4月	109	442	28	863	—	—	1	184	0	398	138
平成29年 5月	272	386	23	857	—	—	0	108	13	539	308
平成29年 6月	1,399	429	7	536	—	—	—	—	—	—	1,406
平成29年 7月	2,606	515	1,455	460	—	—	—	—	1,684	557	5,745
平成29年 8月	2,780	583	2,335	632	—	—	5	333	1,892	517	7,012
平成29年 9月	4,225	568	3,060	633	—	—	0	236	—	—	7,283
平成29年 10月	3,378	556	4,928	572	—	—	0	192	0	383	8,306
平成29年 11月	1,693	509	2,369	545	—	—	0	417	0	415	4,062
平成29年 12月	1,362	540	1,286	598	—	—	0	520	0	442	2,648
計	18,703		17,056		0		6		4,111		39,876
平成30年 1月	744	539	330	659	—	—	0	414	—	—	1,074
平成30年 2月	399	439	864	649	—	—	0	356	621	532	1,884
平成30年 3月	200	487	18	600	—	—	0	340	4	438	222
平成30年 4月	186	424	8	600	—	—	0	256	0	385	194
平成30年 5月	308	390	62	663	—	—	0	358	—	—	376
平成30年 6月	884	420	21	594	—	—	—	—	96	428	1,001
平成30年 7月	867	455	519	539	—	—	—	—	3,124	466	4,510
平成30年 8月	1,298	546	1,105	573	—	—	—	—	605	518	2,998
平成30年 9月	4,219	493	3,527	588	—	—	—	—	182	458	7,928
平成30年 10月	2,641	591	2,324	597	—	—	0	719	0	387	4,965
平成30年 11月	2,226	609	1,087	649	—	—	0	324	—	—	3,313
平成30年 12月	1,191	584	1,268	694	—	—	0	251	0	343	2,459
計	15,183		11,133		0		0		4,632		30,918
平成31年 1月	382	580	192	685	—	—	0	146	—	—	574
平成31年 2月	525	534	658	697	—	—	0	220	34	529	1,217
平成31年 3月	302	551	2	761	—	—	2	245	—	—	304
平成31年 4月	193	578	—	—	—	—	2	268	—	—	196
令和元年 5月	220	382	—	—	—	—	—	—	—	—	220
令和元年 6月	596	395	—	—	—	—	0	393	—	—	596
令和元年 7月	1,090	458	380	608	—	—	0	5	3,658	505	5,128
令和元年 8月	2,277	507	128	723	—	—	—	4	602	2,409	
令和元年 9月	2,999	646	486	939	—	—	0	77	3,028	396	6,513
令和元年 10月	2,142	830	117	1,062	—	—	0	123	425	430	2,684
令和元年 11月	4,238	788	262	1,281	—	—	0	117	—	—	4,500
令和元年 12月	1,812	665	422	1,192	—	—	0	22	—	495	2,237
計	16,776		2,647		0		4		7,152		26,579
令和2年 1月	645	626	170	1,094	—	—	0	22	20	424	835
令和2年 2月	403	536	291	1,094	—	—	0	182	11	443	703
令和2年 3月	397	535	440	1,035	—	—	4	183	48	488	889
令和2年 4月	179	516	—	—	—	—	4	250	—	—	183
令和2年 5月	1,025	329	—	—	—	—	1	266	—	—	1,026
令和2年 6月	879	335	27	514	—	—	1	179	—	—	907
令和2年 7月	829	508	203	654	—	—	0	133	3,615	388	4,647
令和2年 8月	1,667	518	563	670	—	—	—	—	563	389	2,793
令和2年 9月	3,696	471	146	716	—	—	0	56	1,798	330	5,648
令和2年 10月	4,223	563	669	718	—	—	0	64	1,167	330	6,059
令和2年 11月	2,772	626	854	743	—	—	0	41	6	314	3,634
令和2年 12月	1,294	598	627	685	—	—	0	34	—	—	1,923
計	18,009		3,990		0		18		7,228		29,231
令和3年 1月	289	551	445	687	—	—	0	43	16	350	741
令和3年 2月	455	551	387	645	—	—	0	77	—	—	842
令和3年 3月	370	490	313	671	—	—	0	136	13	415	700
令和3年 4月	161	486	—	—	—	—	1	123	0	199	163
令和3年 5月	117	424	—	—	—	—	13	1,001	—	—	130
計	1,383		1,149		0		14		29		2,575
対前月比(%)	73	87	—	—	—	—	—	2,089	804	—	86
対前年同月比(%)	11	129	—	—	—	—	—	1,594	388	—	17

注1：平成22年1月分調査より、あわいかが調査対象品目となりました。

注2：平成22年1月分調査より、調査対象品目と調査対象市場が変更

注3：平成21年度分については調査対象市場が変更済みです。

III. 農林水産統計

1. 産地別水産物流通統計 令和3（2021）年5月

（2）累積上場水揚量・価格

単位 水揚量：トン 価格：1kg当たり円

品目	累積の上場水揚量			累積の平均価格		
	2021年 1月～5月	2020年 1月～5月	対前年 同期比（%）	2021年 1月～5月	2020年 1月～5月	対前年 同期比（%）
するめいか（生）	1,382	2,646	52	516	476	109
〃（冷、近海）	1,148	901	127	661	1045	63
〃（冷、遠洋）	—	—	—	—	—	—
あかいか（生）	15	9	158	904	216	418
あかいか（冷）	29	79	37	379	466	81
合計	2,574	3,635	71			

注1：平成22年1月分調査より、あかいかが調査対象品目となりました。

III. 農林水産統計

1. 産地別水產物流通統計 令和3(2021)年4月

(3) 漁港別水揚量・価格(令和3年4月)

漁港	するめいか 生		するめいか 冷、近海		するめいか 冷、遠洋		あかいか 生		あかいか 冷		水揚量
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	
1 函館	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
2 小樽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
3 銀山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
4 稚内	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
5 紋別	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
6 網走	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
7 羅臼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
8 根室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
9 齒舞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
10 八戸	2	736	—	—	—	—	—	—	—	—	2
11 宮古	0	459	—	—	—	—	1	89	—	—	1
12 大船渡	0	554	—	—	—	—	—	—	—	—	0
13 釜石	0	548	—	—	—	—	—	—	—	—	0
14 気仙沼	0	431	—	—	—	—	—	—	—	—	0
15 女川	0	163	—	—	—	—	—	—	—	—	0
16 石巻	13	400	—	—	—	—	—	—	—	—	13
17 塩釜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
18 小名浜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
19 大津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
20 波崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
21 銚子	1	460	—	—	—	—	—	—	—	—	1
22 勝浦 (千葉)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
23 三崎	0	699	—	—	—	—	—	—	—	—	0
24 沼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
25 焼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
26 新潟	1	720	—	—	—	—	—	—	—	—	1
27 小木 (石川)	3	717	—	—	—	—	—	—	—	—	3
28 奈屋浦	2	367	—	—	—	—	—	—	—	—	2
29 舞鶴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
30 勝浦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
31 串本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
32 境	4	572	—	—	—	—	—	—	—	—	4
33 浜田	27	602	—	—	—	—	—	—	—	—	27
34 下関	9	379	—	—	—	—	—	—	—	—	9
35 八幡浜	2	596	—	—	—	—	—	—	—	—	2
36 愛南	1	418	—	—	—	—	—	—	—	—	1
37 福岡	13	459	—	—	—	—	—	—	—	—	13
38 唐津	3	238	—	—	—	—	—	—	—	—	3
39 松浦	17	273	—	—	—	—	—	—	—	—	17
40 長崎	7	220	—	—	—	—	—	—	—	—	7
41 佐世保	5	177	—	—	—	—	—	—	—	—	5
42 鶴見	5	134	—	—	—	—	—	—	—	—	5
43 北浦	1	137	—	—	—	—	—	—	—	—	1
44 油津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
45 枕崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
46 山川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
47 鹿児島	—	—	—	—	—	—	12	1,039	—	—	12
48 那覇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
合計	117	424	—	—	—	—	13	1,001	—	—	130

—:事実のないもの 161 486 — — — 1 125 0 199 162

III. 農林水産統計

2. 冷蔵水産物物流統計 令和3(2021)年5月

月間入・出庫量及び月末在庫量

単位：ト \times

品 目	令和3年5月 月末在庫量			令和3年5月 月間入庫量			令和3年5月 月間出庫量			令和3年5月 月末在庫量			5月末 在庫量	前月比 %	月間 入庫量	月間 出庫量	月末 在庫量	対前年同月比
	計	产地	消費地	計	产地	消費地	計	产地	消費地	計	产地	消費地						
(まつりかを含む)	18,100	16,014	2,086	1,971	1,301	669	3,103	2,591	512	16,968	14,724	2,244	94	103	117	112		
(もんごういかを含む)	2,735	733	2,002	1,062	431	631	781	218	563	3,016	946	2,070	110	133	101	107		
その他のいわ類	26,636	12,578	14,059	4,995	1,509	3,486	4,723	1,729	2,994	26,909	12,357	14,551	101	112	100	105		
合 計	47,472	29,324	18,147	8,028	3,242	4,786	8,607	4,068	46,892	28,027	18,865	99	113	105	107			

注：「対前年同月比」は、前年同月より引き続き調査を行っている工場のみで算出しています。

全国いか組合報第638号 (B)
(非売品)

編集・発行 全国いか加工業協同組合
住 所 〒113-0034
文京区湯島3丁目14番8号 加田湯島ビル6階
電 話 03-3834-3731
F A X 03-3834-3735
発 行 日 令和3年8月1日
作成協力 株式会社マイトベーシックサービス
